



INFOS

日仏整形外科学会広報誌

アンフォ

■会長 ……七川 敬次

Président : K. SHICHIKAWA

■副会長 ……菅野 卓郎

Vice-Président : T. SUGANO

小野村 敏信

T. ONOMURA

■書記長 ……小林 昌

Secrétaire général : A. KOBAYASHI

■書記・会計 ……瀬本 喜啓

Secrétaire et Trésorier : Y. SEMOTO

大橋 弘嗣

H. OHASHI

■事務局：〒569 大阪府高槻市大学町2-7 大阪医科大学整形外科学教室内

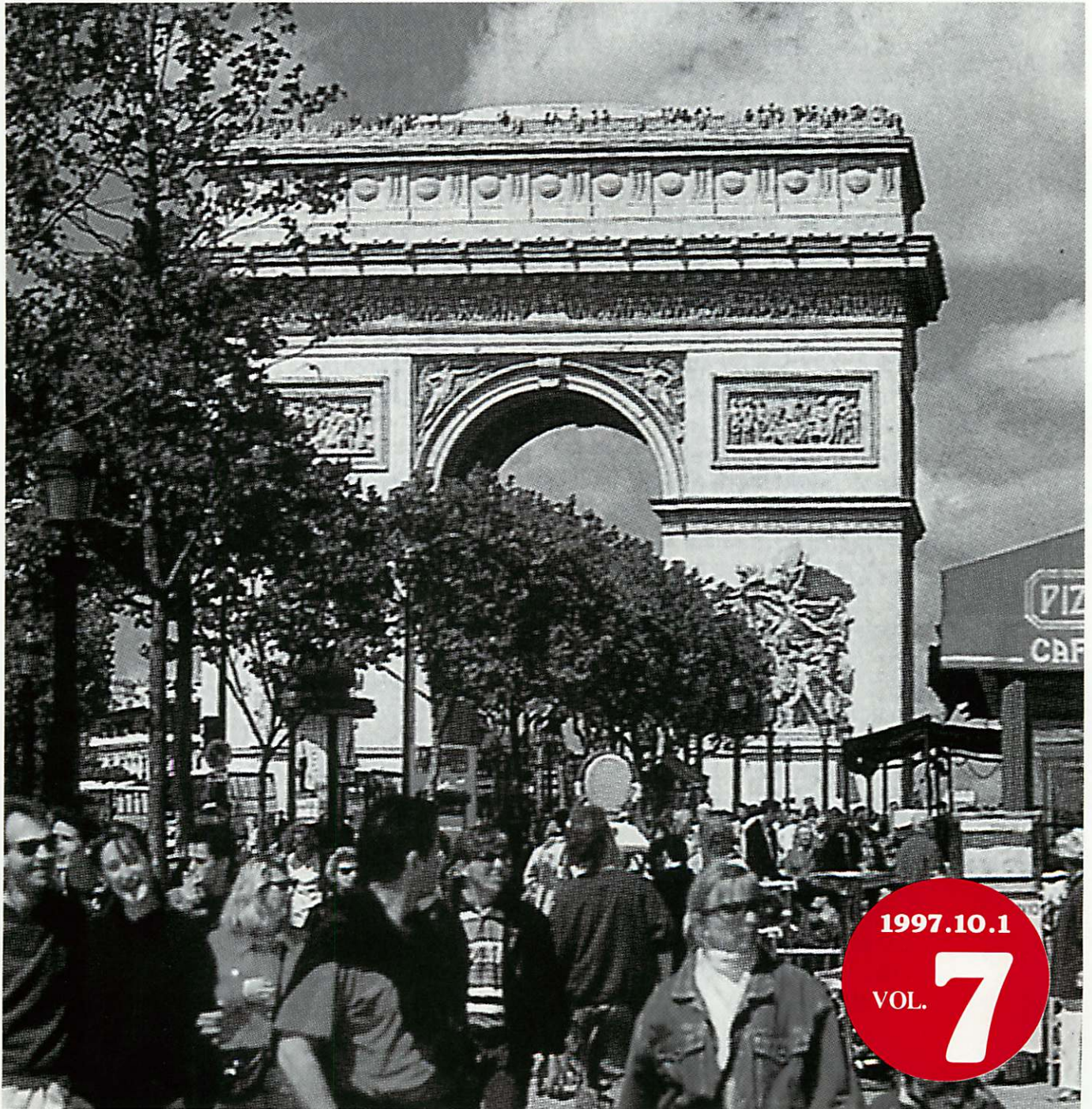
Tel. (0726)83-1221 代表 (内)2364 Fax. (0726)82-8003

Bureau : Dept. of Orthopaedic Surgery, Osaka Med. College, Takatsuki, Osaka 569 JAPAN

■発行所：〒545 大阪市阿倍野区旭町1-5-7 大阪市立大学医学部整形外科学教室 (編集者：大橋 弘嗣)

Tel. (06)645-2161 Fax. (06)646-6260

Maison d'édition : Dept. of Orthopaedic Surgery, Osaka City Univ. Med. School, Abeno-ku, Osaka 545 JAPAN (Éditeur : H. OHASHI)



1997.10.1

VOL.

7

今後一そうの発展をめざして

日仏整形外科学会は今年で第7回を迎え、これまで順調に発展してきたのも、会員諸氏のご支援ならびに事務局の瀬本、大橋両先生の献身的なご努力によるもので改めて感謝の意を表したい。また有意義な、発想に充ちた会として、日仏間の科学、文化の交流の機関としても、今後一そう発展させたい想いに駆られる。

今回は本年11月1日に、日本肩関節学会に接して同じ京都国際会議場で開催されることになった。これは会長の平澤泰介教授のご好意によるもので、ここに厚く御礼申し上げます。

当会が招いたリヨン大学のD. GAZIELLY教授は肩の外科のエキスパートであって、日本肩関節学会のシンポジストとしても招待されている。我々の会では最近注目されている肩の腱板損傷の修復にpolypropylene reinforcement deviceを用いる方法について特別講演をして戴く。今年はさらにNantes大学のJ. V. BAINVEL教授に人工股関節とHAコーティングの特別講演があり、例年になく、二人の仏人講師を招待できて充実したプログラムとなった。

またフランスに留学された安間基雄先生、寺門淳先生、仁平高太郎先生から恒例の帰朝報告を聞けるのも楽しみである。これら交換研修の先生達の見聞したフランスの医学、文化についての体験談や印象、批判は新鮮で、私には学ぶところが大きい。時には異文化の障壁にあって摩擦を起こすこともあるようであるが、これも得難い経験であり、将来生かされるものと確信している。

今年のフランス側交換研修医はDr. VARGASとDr. MERCIERの二人で、VARGAS先生は小児整形が希望で、坂巻豊先生（国立小児病院）、井上一教授（岡山大学）、広島和夫先生（国立大阪病院）に、MERCIER先生は超音波診断が希望で、瀬本喜啓先生（大阪医科大学）にお世話をお願いした。日仏整形外科学会は、毎年、各方面の先生方のご協力とご援助によって活動が支えられてきた。さらに賛助会員、企業のご支援によるところも多大で、ここに関係各位に深甚の謝意を表す次第である。

来年は日仏整形外科合同会議（AFJO）がリヨンで、9月16日～20日の間に、他の学会と合わせて開催される予定である。このAFJOで、日仏共同研究のpreliminary reportもある筈で、股関節症の病因に関する新しい知見が、Dr. INOUE、Dr. WICARDから報告されることを期待している。パリーの時に劣らず、大勢の会員の方々のAFJOへのご参加を心からお願いしたい。



「私達のフランス研修」

平成8年度交換研修報告

組合立国保成東病院	整形外科	寺角 淳 先生
都立清瀬小児病院	整形外科	仁平高太郎 先生
順天堂大学	整形外科	安間 基雄 先生



3 カ月間で2つの病院を訪問

私の交換研修は平成8年9月から12月までの3カ月間、脊椎手術の研修を中心にパリ市内の2つの病院を訪問しました。Charles-de-Gaulle空港に到着したのは肌寒く暗い9月の午前4時でした。慣れない片言のフランス語を駆使し、タクシーに乗り込み予約してあるパリ市内のホテルへと向かいました。

インプラント輸入先、第2位はフランス

日本に輸入されている整形外科のインプラントの1位はUSA製ですが、2位はフランス製と聞いています。実際、脊椎外科で昨今使用されているpedicle screwもフランスの開発ですし、CCD、spine system、Diapasonなど数多くのinstrumentが日本でも使用されています。また、日本に入ってくる医学情報の殆どはアメリカのものが中心で、欧州からは少なく、留学する人も少ないように思われます（その理由に語学の問題もあるのでしょうか）。そこで、欧州ではどのような医療をしているのか、ムルロア核実験のことも気に掛けながら、この日仏整形外科学会の交換研修留学生に応募した次第でありました。

初めて見た「キモパライン治療」

最初に訪問したのはHôpital Beaujonです。この病院はパリの北西のはずれに位置するClichyというところにあり、病床数は約1000床で、そのうち整形外科は100床程度。スタッフはDeburge教授以下約10人位の規模ですが、手術日は月曜から金曜まで毎日、年間1000～1500件のオペをこなす、その内約6割が脊椎関係（この病院はとくに慢性疾患患者が多い印象でした）の手術です。アメリカと同様に入院日数は短く、平均7日位とのことでした。したがって、頸椎椎間板ヘルニアの前方固定の患者も1週間で退院ですし、キモパラインの患者は翌日退院であります。早期離床、早期退院にはやはり強固な固定が必要らしく、頸椎椎間板ヘルニアの前方固定はたとえ1椎間でもプレートを使用しますし、変形性腰痛症で若干でもinstabilityがあれば後側方固定+プレート固定を行っていました。また、日本では見たことのない頸椎椎間板ヘルニアのキモパライン治療も見学できました。

現在まで約100例の経験があり、大きな合併症はなく、手術療法に移行するのは約5%とのことでした。キモパラインを導入してから頸椎のオペは減少しているとも言っていました。Deburge教授はオリジナルで色々な手術器具、インプラントを特注で造らせて使用しており、この創造性の自由で豊かなところが独特のインプラントを作り出す源なのだと思われました。また、Deburge教授の手術は非常に慎重・丁寧であり、見習うべきところが多くありました。

休憩室で美味しいパンとコーヒーを

この病院の整形外科を日本人医師が訪問するのは2回目ということで随分と親切に頂きました。オペ室のMeyer 婦長には細かなことまで世話して頂き、オペ室の休憩室で遠くにエッフェル塔を眺めながら美味しいオレンジ、パンとコーヒーを手術の間にはおぼりました。スタッフの医師たちも英語でよく説明して下さい（特にDr. Guigui、Dr. Bencheikh）、昼食は皆でSalle de Gal（食堂）でこれまた美味しいフランス料理を食べました。また、他のtravering fellowで来仏していた韓国の先生とも知合い、色々と意見交換もできました。この様に病院の内ではあまり不自由なく、ほぼ毎日脊椎外科の手術を見学することができ充実した研修を行うことができました。

フランス1の病院、オペは1日10件

10月中旬からはHopital Pitie-Salpetriereに訪問しました。この病院はパリの南東部Gare de Lyonの近くに位置し、フランス1の巨大病院で病床数は約3000床を有します。歴史も古く、神経学が特に有名で、BabinskiやCharcotがいた病院であると聞きました。整形外科の先代主任教授はpedicle screwを開発した著明なRoy-Camille先生であり、現在の主任教授はSaillant教授、その他にBenazet教授、Lazennec教授がおられ、整形外科のオペ件数は1日10件、1年で約2500～3000件の手術をこなす、脊椎手術は4割程度でした（こちらの病院は外傷性の疾患も多いようでした）。この病院の開始時間は早く、朝7時45分から前日のオペカンファレンスが始まります。この頃は冬時間となり、朝6時30分にアパートを出発するころはまだ真っ暗でありました（でも、マルシェ＝朝市はすでに開店しているものもありました）。

■ インプラントは殆どオリジナル

この病院は国際的にも有名であり、ベルギー、インド、イスラエル、ベトナム、ガーナ等色々な国からの留学生がおり、カンファレンスも英語で行って頂きました（脊椎疾患のみ）。3人の教授はとても親切であり、特にLazennec教授はいつも手術中にジョークを言いながら解説、説明をしてくださいました。この病院で使用している脊椎用インプラントは殆どがオリジナルのもので、脊椎後方instrumentはRoy-Camille

教授が造られたものを更に改良したドミノシステムというインプラントを使用していました。

Benazet教授は鏡視下脊椎手術を1994年から開始されており、すでに胸腔鏡手術40例、腹腔鏡手術20例近くの経験があるとのことでした。私の滞在中にも幸いに2例の胸腔鏡手術を見学することができました。Benazet教授は年に3~4回パリで鏡視下脊椎手術のレクチャーコースを英語で主催しており、ブタを使用してハンズオンで鏡視下脊椎手術の指導をしています。日本へも要請があれば講義をしに行くと言っていました。

■ 「手術学校」での貴重な経験

また、Lazennec教授のはからいでEcole de Chirurgie（手術学校とでも訳するのでしょうか）にも行かせて頂きました。ここはinterne、Dr.が遺体を使用して手術の練習をする公立の手術訓練所であり、この病院の3人の教授はEcole de Chirurgieの講師でもあります。そこで私は脊椎手術のない日にはこのEcole de Chirurgieを利用し、今まで自分では行っただけのことがないアプローチや、手術中には展開できない部位まで解剖し、神経血管の位置を確認することができ、大変勉強になりました。

■ 休みの日にはノルマンディにドライブも

また、この留学中に同じ日仏整形外科学会の交換留学生でパリの違う病院に研修に来ていた順天堂大学の安間先生とも知り合うことができました。彼は留学前にフランス語を勉強してきた上に、2年間の留学の為最初の2カ

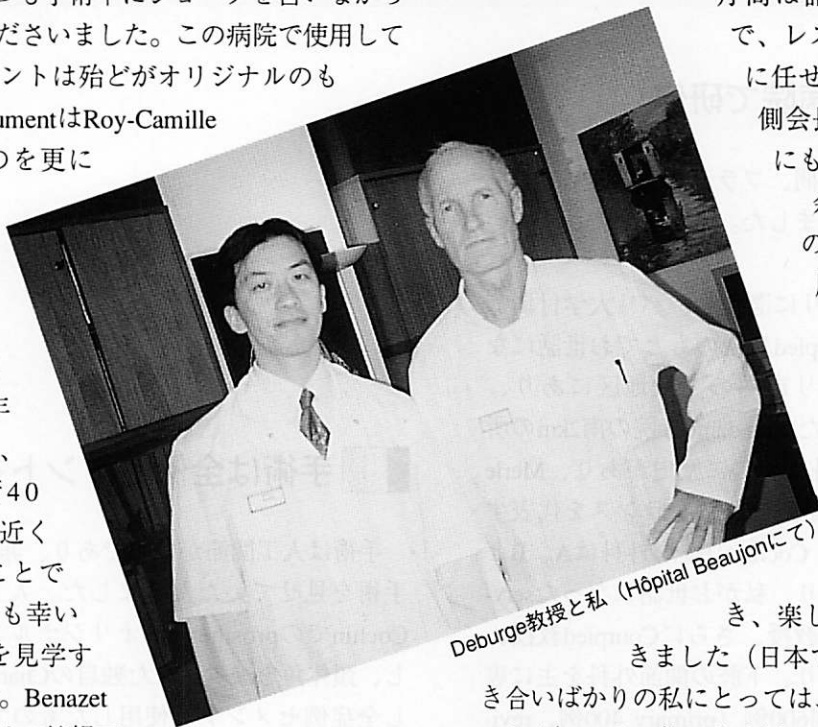
月間は語学学校に通った努力家で、レストランでは専ら注文は彼に任せっきりでした。フランス側会長のCourpied教授のところにも2人で挨拶に伺いました。

余暇にはフランス人の知人の自宅を訪問したり、パリ周辺の古城を訪ねたりしました。また、週末は安間先生の通われていた語学学校の日本人会社員たちと安いワインとチーズで飲み明かし、時にはノルマンディまでドライブに行き、楽しい時間を過ごすことができました（日本では日頃医療関係者とのつき

き合いばかりの私にとっては、人間関係も広がり有意義でした）。その他日常生活においては英語は全く通じないことが多く、日常生活レベルのフランス語は勉強して行く必要があると思われました。住居に関してはパリには日本人の不動産会社が数件あり、家具・食器・洗濯機などが付いた2DKでも月7000F位ですぐに見つけることができました（留学される方でご希望の方はパリの日本人の不動産会社を紹介します）。

■ 大変有意義だった研修

この研修システムは日仏の整形外科の医学交流に大変有意義であり、今後ともこの交換留学が継続し、日仏整形外科学会が益々発展することを希望いたします。最後になりましたが、このような貴重な研修の機会を与えて下さった七川会長、Courpied会長をはじめ日仏整形外科学会の先生方、留学のアドバイスを頂いた諸先生方に深く感謝いたします。



Deburge教授と私（Hôpital Beaujonにて）

パリ大学付属病院で研修

1997年1月から6月までの間、フランスで股関節外科を中心に研修させていただきました。ここに報告させていただきます。

まず最初の3ヶ月間はパリに滞在し、パリ大学付属病院であるCochin病院でCourpied教授のもとでお世話になりました。この病院はパリ市内の文教地区にあり、Disney映画でも有名になったNotredame寺院の南2kmの所にあります。特に整形外科は非常に歴史があり、Merle d'Aubigne教授やPostel教授を輩出し、フランスを代表する施設の一つであります。Cochinの整形外科はA、Bと二つのserviceに分かれており、私がお世話になったservice Bは主任教授がKerboull教授、さらにCourpied教授、Mathiu教授と三頭立てであり、下肢の関節外科を主に専門とし、THAだけでも年間600例（primary 400例、revision 200例）をこなします。

体力の差を痛感

毎朝、7時半に宿舎を出て、地下鉄で3つ目のSaint Jacquesで下車します。冬のフランスの朝は8時を過ぎても真っ暗で、耳が切れる感じがするほど寒く、この時期に来たことを後悔しつつ10分ほど歩くとCochin病院に着きます。8時からカンファレンスがあり、前日の手術症例のレントゲン写真を供覧します。真冬だというのに、Courpied教授他、数名のDr.は上半身裸の上に胸毛をちらつかせながら白衣をまとって現れ、これがフランスファッションの真髓かと感心したりしました。8時半頃から手術が始まり、大体一人で2、3例の手術を昼過ぎまでに行います。たとえ、4時までかかろうとも手術の合間に昼食をとることはせず、彼らの体力には人種の違いを感じざるを得ませんでした。

手術は全例セメントを使用

手術は人工関節が中心であり、非常に手際よく綺麗な手術を見せていただきました。人工股関節に際して、Cochinでのprosthesisはオリジナルよりステム長を長くし、頸体角を減少させた独自のCharnly-Kerboull型を使用し全症例セメントを使用したものでした。revision例で特にbone stockの著しく足りない症例では大腿骨近位15cmにもわたるmassive bone allograftを用いるような手術も少なくなく非常に感銘を受けました。

レジデントも堂々と主張するカンファレンス

昼食は病院の下級医師向けの食堂でとるのですが、それがとてもおいしいのです。華美ではありませんが、一応、前菜からチーズ、デザートまでのフルコースで、私にとっては外のレストランで食べる料理より口に合いました。夕方は週に3回、術前症例のカンファレンスがあり、レジデントも忌憚のない自分の意見を堂々と主張し（時々間違っているが）、やはり科学においてはかくあるべきかと妙な感心をいたしました。

バリの最後にはCourpied夫妻に夕食をご馳走になり、滞在中も何かと気にかけていただき、非常に感謝しております。

1 例65分程度の手際の良さ

次の訪問地はフランス第2の都市リヨンです。リヨンには5月に到着したので、その時分は花は街中に溢れ、乾いた空気の中で太陽は輝き、最高の季節でありました。リヨンではSaint Joseph Saint Luc HopitalのCaton先生にご指導頂きました。Caton先生は1979年以来3000例を超える人工股関節の臨床経験をお持ちで、prosthesisはやはりCharnlyの改良型で全例、セメント固定でした。その手術で特筆すべき点は、関節包は切除せず、切離するだけで最後に縫合するという点であります。primary OAの多いフランスだからこそ確立した手技ではありますが、Caton先生によりますと切除例と比し、術後の可動域、疼痛に何ら違いはないとの結果を得ているとのことでした。Caton先生はとてもよく働き、private clinicにも週2日出向き、そちらでも1日に4、5件のTHAをこなします。手際よく、1例が65分程度で終了し、その時点で次の患者さんの麻酔がかかっているというふうで、ここでも自分の体力のなさを痛感させられる羽目になりました。（フランス人のアシは重かった！）

美食の町リヨンではワインの勉強も

リヨンでの病院の昼食も、美食の町として有名なだけあって、やはりおいしく、おまけにいつもテーブルの上には赤ワインが水差しにいっぱい入っており、私も少しはワインの勉強もさせていただきました。

リヨンは接する人々が皆、とても親切で、また、歴史ある町並みが整然と近代に調和した感じを受け、私には大変思い出深い地になりました。Caton先生ご夫妻にはご自宅に招いていただき、モニュメントやサクランボの木のある芝のお庭で、おいしいワインを頂きました。

合理的な分業システム

フランスの整形外科をみて一番に感じたことは、良かれ悪かれ、整形外科医は手術のことだけを考え、手術だけをするシステムになっているということです。我々に比し非常に多くの時間、集中力を手術に向けることができ、多くの手術症例を経験し、手術の技術もとても高いレベルにあります。その背景にはanesthesist（術中だけでなく、術前・後の管理をする）、rheumatologist（手術患者以外の整形外来一般を担当する）、oncologist、bacteriologist等との合理的な分業がうまくいっていることと、専門教育システムの良さがあると痛感しました。

多くのことを学びました

この留学では、私は日本にいては得ることのできない、多大なことを学べたと自負しております。最後にこのような素晴らしい経験をさせて頂くことができ、七川会長はじめ日仏整形外科学会役員・会員の諸先生方、色々ご面倒をおかけした瀬本先生、ジランさんに改めて感謝の意を述べさせていただきます。

ただ今、研修中

私は順天堂大学整形外科に昭和63年入局し、現在フランスで臨床の研修をしています。専門分野は関節外科で、股関節及び膝関節の形成術にとくに興味を持っています。私が渡仏したのは96年7月ですから既に1年2ヶ月ほど経過し、ようやく習慣の違いや仕事にも慣れたところです。日仏整形外科学会の交換研修制度は3ヶ月ですが、私は当初から一年の計画で渡仏し、その後さらに1年延長させていただきました。主な研修施設はCentre chirurgical de la Porte de Pantinという中規模の一般病院です。

豊富な人工関節の症例

この施設の第一の特徴としては人工股関節・膝関節の症例が豊富な事が挙げられます。これは名物コンビであるマロット先生とブランシア先生（お二人とも60歳ですがそのパワフルなこと！）が、それぞれ股関節と膝関節の専門家であることが大きな理由です。70年代からの膨大な手術件数のお陰で人工股関節の再置換例も多く、とくに骨欠損の大きな症例に対する対策が非常に勉強になります。またご存じのようにフランスでは壮年期以降の変股症には積極的に人工関節手術を行う為、股関節の骨切り術の症例は比較的少ないのですが、変形性膝関節症

に対する高位脛骨骨切り術は大変多いです。また単顆置換型の人工膝関節もかなり行っています。この他に脊椎、手、肩、外傷など症例のバランスも取れていると思います。

職人芸の固まりの先生に圧倒される

第二の特徴としては、私のような外国人やインターンにも執刀の機会が積極的に与えられ、ベテランの叱咤のもとに豊富な経験を積めることが挙げられます。特にマロット先生は伝統的フランス整形外科職人芸の固まりのような人で（実際あのジュデーの助手をしていたそうです）、手術の早さとの確さに我々若造は全く圧倒されています。「それモトオ、やれ！」と言われて執刀するわけですが、「しっかりしろ、ジャボネ！」「オーララ、間抜けなインターンめ！」などと私もインターンの友人もやられっ放しです。もちろん悪意がないことが判っているので今ではむしろ楽しんでいますが、慣れるまではとんでもないところに来てしまったと後悔したものです。

あなたもフランス研修に!

フランス研修募集要項

日仏整形外科学会では、フランス整形外科学会(SOFCOT)との間で青年整形外科医の交換研修を行います。研修条件、応募条件等は下記のとおりです。申請書の請求および詳細については下記までご連絡下さい。

1) 募集人員 若干名(平成10年度)

2) 応募条件 日本整形外科学会の認定医であること。
原則として40才を応募年令の上限とします。

その他の詳しい条件は下記の事務局までお問い合わせ下さい。

3) 研修条件

1. 滞在期間は3か月間を原則とする。

2. 費用について

a) 渡航費用の一部を日仏整形外科学会が援助する。

b) フランス滞在中の本人の宿泊費と食費はSOFCOTが負担する。

3. 本年度の研修開始時期は平成10年度中とする。

4. 研修を希望する分野に応じてSOFCOTが研修施設を推薦する。

5. 研修期間中の家族の同伴は原則として認めない。

4) 申請締め切り 平成9年11月30日必着

5) 申請書類等については下記にご請求下さい。

日仏整形外科学会 事務局

大阪医科大学整形外科教室内

〒569 大阪府高槻市大学町2-7

電話 (0726) 83-1221 代表(内線) 2364

FAX (0726) 82-8003

お問い合わせは瀬本まで

毎日が充実しています

毎日の生活は朝8時から回診、8時半から午後2時か3時まで手術、昼食は大抵取れずすぐ外来の手伝い、6時頃帰宅というパターンです。マロット先生とブランシア先生の手術には全例手洗いをしますからかなり忙しく、ちなみに先週1週間で人工股関節2例、人工股関節再置換3例、人工膝関節再置換1例、高位脛骨骨切り術3例、関節鏡2例、手の外科1例、外傷1例の手術に入りました。また午後外来がない日は人工股関節再置換の術後長期成績をなんとか論文にまとめようと、カルテ室で孤軍奮闘しています。帰りの地下鉄では眠らずにいるのが一苦勞という有り様ですが、充実した日々を過ごせています。フランスでの臨床研修の実際についてお知りになりたい方は、yasuma@club.ntt.frまでEメールでお問い合わせ下さい。



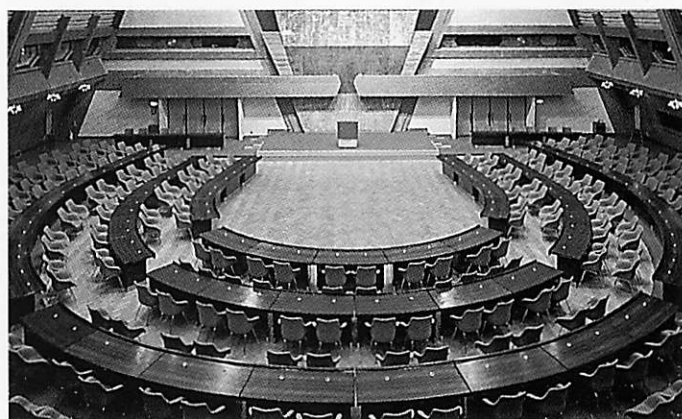
▲国立京都国際会館

第7回SOFJO・日仏整形外科学会開催のお知らせ

第7回日仏整形外科学会を下記の要領で開催します。
特別講演として、今回はリヨン大学のガジエリー教授に
腱板断裂、ナント大学のバンヴェル教授に人工股関節に
関して、最新のフランスの治療につきお話しいたします。

記

- | | |
|------|---|
| 日時 | 平成9年11月1日（土）17時30分～19時30分
（日本肩関節学会第2日目終了後）
（懇親会 19時30分～） |
| 場所 | 京都国際会館
京都市左京区岩倉大鷲町鴨合木422
（日本肩関節学会の会場と隣接） |
| 特別講演 | 1）Indicational and results of a polypropylene
reinforcement device RCR for the repair of
rotator cuff tears（英語講演）
Prof. D. GAZIELLY（Lyon大学教授）
2）人工関節とHAコーティング
（フランス語講演、通訳付）
Prof. J. V. BAINVEL（Nantes大学教授） |
| 使用言語 | 日本語、英語
（フランス語には通訳がつきます） |



Prof. D. GAZIELLY

(Lyon大学教授)

今秋のSOFJOの招待講演者の一人に、Saint-EtienneのDr. Dominique GAZIELLYが決定し、幸い彼の承諾もえられた。

彼は現代フランスの肩関節領域で若手の代表として活躍しており、国際的にも良く知られている。

本年48歳で1974年リヨン大学医学部を卒業後、Prof. Georges de MOURGUES、Prof. Albert TRILLATの元で研修し、St. EtienneではProf. Gill BOUSQUETの教室に移り、1981年にはChef de Clinique、次いでAssistantとなり、1986年からはSt. Etienneで肩関節疾患治療の専門病院を開院し、現在では院長として活躍している。

この間、1985年にはカナダのToronto大学のProf. R. Peter WELSHのもとに留学し、研鑽を積んでいる。役職としては、フランス整形災害外科学会正会員、ヨーロッパ肩肘外科学会会員ならびにそのフランス代表、フランス関節鏡学会会員、American Shoulder and Elbow Surgeonのcorresponding member、フランス・テニス協会のmedical adviser、ロワール県スポーツ医学会会長などがあり、彼の肩関節領域での活躍がうかがえる。

1986年福岡で開催された、第3回国際肩関節学会で来日し、“Shoulder stabilization in athletes by coracoid transfer”と題して講演している。

論文、著書は枚挙にいとまはないが、“Shoulder”、“Surgery of the Shoulder”、“Surgical Disorder of the Shoulder”などでの分担執筆、Clin. Orthop., J Shoulder Elbow Surgなどに多数の英語の論文がみられる。

仕事としては肩腱板損傷を中心として、ことに鏡視下手術を得意とし、彼の病院には内外の見学者が後を絶たない。私も一度SLAP lesion repairを見学したことがあるが、その迅速的確な手術ぶりに驚嘆させられた。

今回、彼は“Repair and RCR reinforcement of reparable rotator cuff tears in the shoulder”と題して講演する予定である。これは修復する腱板が薄く、変性している場合、術後再断裂を起こす危険性を避けるため、ポリプロピレンで作成されたreinforcement implant “RCR”で補強する方法である。豊富な経験と長期にわたる多数例の発表である。

カナダ留学の経験から、英語はきわめて堪能である。

このようなフランス整形災害外科学会の未来を担う、国際的な若手の臨床研究者を迎えることは、大きな喜びであり、講演を今から期待している次第である。

(福岡整形外科病院 小林 昌)

Prof. J. V. BAINVEL

(Nantes大学教授)

ナントはロワール河口近くにあるフランス第7番目の人口を持つ古い都市です。

バンヴェル教授はナント大学医学部を1960年にご卒業され、同大学付属病院でインターン、助手等を経て、1976年より整形外科学および外傷学講座正教授(Professeur Titulaire)兼、大学付属病院整形外科主任(Chef de Service)をお勤めになっておられます。臨床では特に股関節外科、足の外科、外傷学にご経験とご造

詣が深い先生です。大学病院内外の種々要職を御兼務ですが、1991年からは日本での大学病院長に相当する役職

(Président de la Commission Médicale Consultative du CHU)をお勤めです。長期にわたる教授職の間にProf. J-M Rogez (小児整形外科)、Prof. N. Passuti (脊椎外科)など数人の後進教授を含む多くの弟子を育てられるとともに、第二整形外科、救急外傷科、小児整形外科の各部門を独立させて同CHUの整形外科を飛躍的に発展させた実力者でもあられます。今回、第7回日仏整形外科学会では、股関節外科の豊富なご経験のなかから「HAコーティングとTHA」についてご講演が予定されています。

(市立長浜病院整形外科 高橋 忍)

2



日仏整形外科学会ボランティアグループ 「パピヨン」に入会しませんか

—— Equipe bénévole pour la SOFJO (AFJO) ——

日仏整形外科学会の活動を支えていただくために
1996年4月に結成されました。

まず1996年4月13日・14日に東京で開催された第4回日仏
整形外科合同会議のお手伝いをするために10数名の先生
や関係の方々に登録していただき、会議の開催に協力し
ていただきました。

今後も日仏整形外科学会の運営をお手伝いしていただ
ける先生ならびに一般の方々にボランティアとしてご登録
いただき、可能な時間にお手伝いをお願いしたいと思っ
ております。

日仏整形外科学会の会員または会員1名の推薦を受けた
方なら誰でも入会できます。

日常的な簡単な英会話ができれば、フランス語は必ずし
も必要ではありません。もちろんフランス語のできる方
は大歓迎です。シンボルマークは蝶のマークです。

Papillonに関するお問い合わせ、入会申込は日仏整形外
科学会事務局、瀬本喜啓まで。

3

インターネット・ホームページ 開設しました！

日仏整形外科学会 (SOFJO) のホームページがよい
よ開設されました。ここには本学会に関する学会情報
だけではなく、交換研修募集の案内、日仏整形外科学会
ボランティアグループへの入会募集など、日仏整形外科
学会の活動に関する情報が掲載されます。また、フラン
ス整形外科学会へのリンクなどフランスの情報提供もあ
ります。

URLは以下のとおりです。一度見に来てください。

<http://www.osaka-med.ac.jp/~ort000/SOFJO>



Société
Franco-Japonaise
d'Orthopédie

Welcome to So.F.J.O HomePage

ようこそ日仏整形外科学会 (SOFJO) のホームページへ

*To SOFCOT HomePage (フランス整形外科学会)

このホームページに関するお問い合わせは
ort003@poh.osaka-med.ac.jp へ

Copyright (c) 1997
Société Franco-Japonaise d'Orthopédie, Japan.
All rights reserved.

日仏整形外科学会会計報告・予算をお知らせします

平成 8 年度会計報告

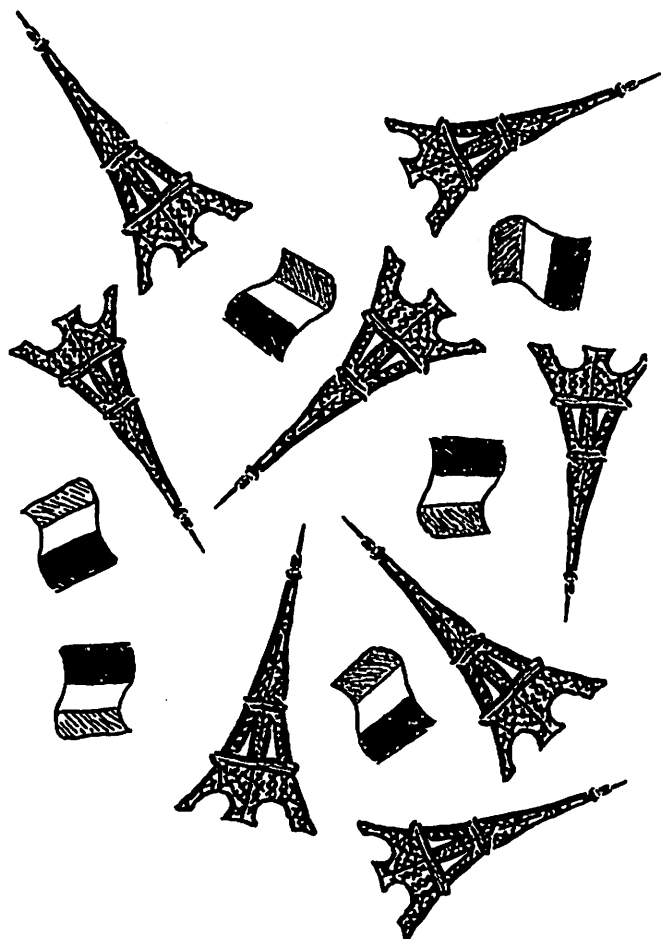
歳入の部	(単位：円)
一般会員年会費	625,000
賛助会員	1,700,000
・医療関連企業	500,000
・一般企業	1,200,000
広告料	1,070,000
預金利息	7,383
雑収入	40,764
前年度繰越金	3,754,263
計	7,197,410

歳出の部	(単位：円)
日本人交換整形外科医奨学金	900,000
フランス人交換整形外科医奨学金	243,480
日仏共同研究、研究助成費	500,000
日仏整形外科学会事務局費	913,131
・通信費	393,453
・事務費	332,098
・人件費	187,580
会議費	121,723
旅費・交通費	354,657
印刷費	1,368,214
インターネットホームページ作成費	500,000
予備費	0
出金小計	4,901,205
次年度繰越金	2,296,205
計	7,197,410

平成 9 年度事業費予算編成

歳入の部	(単位：円)
一般会員年会費	700,000
賛助会員	2,200,000
・医療関連企業	1,000,000
・一般企業	1,200,000
寄付金	1,700,000
・医療関連企業	1,500,000
・一般企業	200,000
学会参加費等	200,000
広告料	1,000,000
預金利息	8,000
雑収入	50,000
前年度繰越金	2,296,205
計	8,154,205

歳出の部	(単位：円)
日本人交換整形外科医奨学金	
渡航費＋滞在費（一部） $300,000 \times 2$	600,000
フランス人交換整形外科医奨学金	
滞在費、交通費（3カ月） $150,000 \times 2人 \times 3カ月$	900,000
SOFJO開催関係費	1,000,000
日仏整形外科学会関連事業（表彰など）	100,000
日仏共同研究、研究助成	500,000
森崎日整形外科学用語集編纂事業	200,000
インターネットホームページ維持費	300,000
事務局（通信費、事務費、人件費）	800,000
会議費	100,000
旅費・交通費	300,000
印刷費	1,000,000
予備費	100,000
次年度繰越金	2,254,205
計	8,154,205



5

フランス側役員はこの方々です。

Président d'honneur 名誉会長	: Ch. PICAULT
Président 会長	: J. P. COURPIED
Vice-Président 副会長	: R. KOHLER
Secrétaire 書記	: M. CHASSARD
Trésorier 会計	: P. WICART
Member	: L. COLLET
	: P. MERLOZ
Contact 公式連絡員	: ジーラン-小森敬子
	Madame Keiko GIRIN

6

フランス人研修医の受け入れのお願い

本年度も日仏整形外科学会とフランス整形外科学会 (SOFECOT) との間で、青年整形外科医の交換研修を実施致します。現在までに日本側では39ヶ所の施設で受け入れを承諾頂いておりますが、さらに日本側の受け入れ体制を充実しフランス側に提示したいと考えております。受入期間は原則として3カ月ですが、1カ月でも2カ月でも結構ですので、是非会員の先生方のおられる施設で、フランス人整形外科医の研修を受け入れて頂きたいお願い申し上げます。

来日するフランス人医師は、英語を話すことが条件になっております。また日仏間の旅費はSOFECOTが支給し、日本での滞在費（宿泊費、旅費）は、日本側（原則として受け入れ施設）が負担することになっております。受け入れを承諾していただける場合はとじこみの受け入れ承諾書に滞在条件等をご記入いただき、係りまでご送付下さい。

また日本から派遣する医師の募集を行っております。お心当りの先生がおられましたらご応募いただくようお願い申し上げます。

日仏整形外科学会 会長	七 川 敏 次
日仏整形外科学会 交換研修係	小野村敏信

連絡先：大阪医科大学整形外科内
〒569 大阪府高槻市大学町2-7
電話 (0726) 83-1221 代表
内線 2545 (係 瀬本喜啓)
FAX (0726) 82-8003

フランス整形外科医交換研修受け入れ承諾書

様式 1

(日仏整形外科学会 交換研修プログラムによる)

フランス青年整形外科医を対象とした、交換研修プログラムの日本側受け入れを以下の条件のもとで承諾します。(すでに登録されている施設は、変更事項のある場合のみお送りください。)

受け入れ責任者

受け入れ施設名

住 所

電話番号 ()

専門分野

受入条件 (該当する項目の□内にチェックして下さい)

*受け入れ可能な期間 (原則としては3か月間です)

- ☐ 3か月間 ☐ 2か月間 ☐ 1か月前 ☐ 何か月でもよい
☐ その他 ()

*受け入れ可能な時期

- ☐ 月から 月まで ☐ 月を除く ☐ 常時受け入れる
☐ その他 (具体的に)

*受け入れ可能な人数

- ☐ 年間1人 ☐ 年間2人 ☐ 年間3人以上
☐ その他 ()
☐ 同一時期に1人 ☐ 同一時期に2人以内 ☐ 同一時期に3人以上
☐ その他 ()

*宿泊設備について

- ☐ 宿泊設備を無料で利用可能
☐ 宿泊設備を有料で利用可能 (1日 円)
☐ 宿泊設備は備えていないがホテル等の宿泊費は支給する
☐ 宿泊設備は備えていない。ホテル等の宿泊費も支給しない
☐ その他 ()

*食事について

- ☐ 施設内で食事を用意する
☐ 施設内で食事の準備はしないが食費を支給する
☐ 一部施設内で食事を用意し、一部食費を支給する
☐ その他 ()

*交通費について (宿泊場所から研修施設まで交通機関を使用する場合に限る)

- ☐ 交通費を支給する
☐ 交通費は支給しない
☐ その他 ()

*その他

- ☐ 日本国内の学会等への参加を援助する
☐ その他 ()

以上の条件のもとに日仏整形外科学会の青年整形外科医の日仏交換プログラムの日本側受け入れ機関となることを承諾します。

平成 年 月 日

受入責任者氏名

印

第5回AFJOは リヨンで 開催されます

▼リヨンの街角



第5回AFJO (ASSOCIATION FRANCE JAPAN D'ORTHOPEDIE：日仏整形外科学合同会議) が1998年9月17日から19日の3日間、フランスのLyonで開催されます。会員の先生方には、詳細がわかり次第ご連絡いたします。

LyonはParisからTGV (フランス新幹線) で南へ約2時間のところに位置し、ローマ時代の円形劇場やフルビエール教会、サンジャンの古い町並みは、パリとは一味違ったフランスを見いだせることでしょう。Lyonはブルゴーニュワイン、ブレスのチキン、ロアール河畔の果物、中央高地の牛肉など、フランスの最高の食材が集まり、食通の町として知られています。有名なミシュランの3つ星レストランであるポールボキューズやトワグロもあり、近郊にはいまも映画の撮影地として使用される中世の城壁都市ペルージュがあります。

もちろんParisの市内観光やロワール川の古城巡りなど、Lyon以外の観光もお楽しみください。

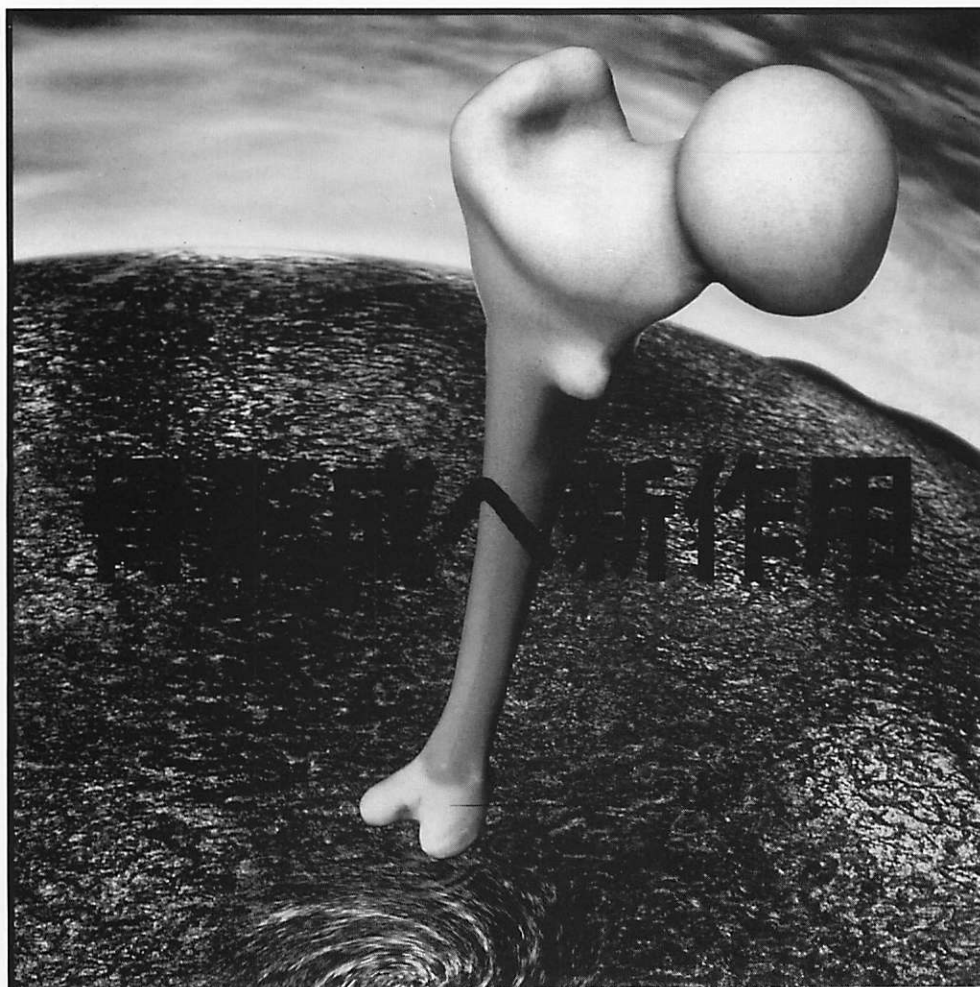
日本からの学会出席ツアーの開催も考えています。

編集 後記

これまでは日仏整形外科学会終了後に学会の報告もかねてINFOSの発行を行ってきましたが、今回から発行時期を早めることになりました。したがって、今回は学会報告の記事はありませんが、そのかわりに少しでも多くの先生方が第7回日仏整形外科学会に参加していただけるように、小林・高橋両先生に招待講演の先生の紹介をお願いしました。

恒例の交換研修帰朝報告は寺門・仁平両先生にフランスでの生々しい体験の報告をいただき、現在も留学中である安間先生からもお便りをいただきました。

INFOSも第7号となり、少しデザインをリフレッシュしてみました。ご意見、投稿などございましたら学会事務局までお願いいたします。(係 大橋弘嗣)



特性

- 1** 骨形成促進作用(ラット, *in vitro*)と、骨吸収抑制作用(*in vitro*)の両面から骨組織の代謝不均衡を改善します。
- 2** 骨基質タンパク質オステオカルシンのGla化(γ -カルボキシグルタミン酸残基の生成)に必須です。オステオカルシン=BGP(Bone Gla Protein)
- 3** 骨代謝回転を高め、骨量改善効果を示します(ラット, *in vitro*)。
- 4** 骨粗鬆症患者を対象とした臨床試験において、骨量及び疼痛の改善に効果があることが確認されています。
- 5** 承認時における副作用発現例数は708例中35例(4.94%)でした。主な副作用は、腹痛8件(1.13%)、発疹・発赤7件(0.99%)、胃部不快感4件(0.56%)等です(1992年3月エーザイ集計)。
- 6** 服用しやすい小型ソフトカプセルです。

本剤はビタミンK₂製剤であり、抗凝血薬療法で用いられるワルファリンカリウム(ワーファリン)の作用を減弱します。これに基づき、使用上の注意に「禁忌」と「相互作用」が設定されています。

【効能・効果】

骨粗鬆症における骨量・疼痛の改善

【用法・用量】

通常、成人にはメナテトレノンとして1日45mgを3回に分けて食後に経口投与する。

【使用上の注意】

1. 一般の注意

(1)本剤の適用にあたっては、厚生省「老人性骨粗鬆症の予防及び治療法に関する総合的研究班」の診断基準(骨量減少の有無、骨折の有無、腰痛の有無などの総合による)等を参考に、骨粗鬆症との診断が確立し、骨量減少・疼痛がみられる患者を対象とすること。

(2)発疹、発赤、痒痒等があらわれた場合には投与を中止すること。

2. 禁忌(次の患者には投与しないこと)
ワルファリンカリウム投与中の患者(「相互作用」の項参照)

3. 相互作用
併用しないこと
ワルファリンカリウム(ワルファリンカリウムの作用を減弱する。)

4. 副作用
(まれに:0.1%未満、ときに:0.1~5%未満、副詞なし:5%以上又は頻度不明)(1)消化器 ときに胃部不快感、悪心、嘔吐、下痢、腹痛、消化不良等があらわれることがある。(2)過敏症 ときに発疹、発赤、痒痒等があらわれることがある。(3)精神神経系 ときに頭痛等があらわれることがある。(4)肝臓 ときにGOT、GPT、 γ -GTPの上昇等があらわれる

ことがある。(5)腎臓 ときにBUNの上昇等があらわれることがある。

5. 高齢者への投与

高齢者に長期にわたって投与されることが多い薬剤なので、投与中は患者の状態を十分に観察すること。

6. 小児への投与

小児に対する安全性は確立していない(使用経験がない)。

7. 妊婦・授乳婦への投与

妊婦・授乳婦への投与に関する安全性は確立していない(使用経験がない)。

8. 適用上の注意

投与時

本剤は空腹時投与で吸収が低下するので、必ず食後に服用させること。なお、本剤の吸収は食事の脂肪含有量に応じて増大する。('体内薬物動態'の項については添付文書を参照)

骨粗鬆症治療用ビタミンK₂剤 薬価基準収載
グラケー[®]カプセル 15mg
Glakay[®] <メナテトレノン製剤>

hvc
ヒューマン・ヘルスケア企業

Elsal

エーザイ株式会社
〒112-88 東京都文京区小石川4-6-10

資料請求先:
エーザイ株式会社医薬事業部

●ご使用に際しては添付文書
をご参照ください。



フリーマン・トータル・ヒップ

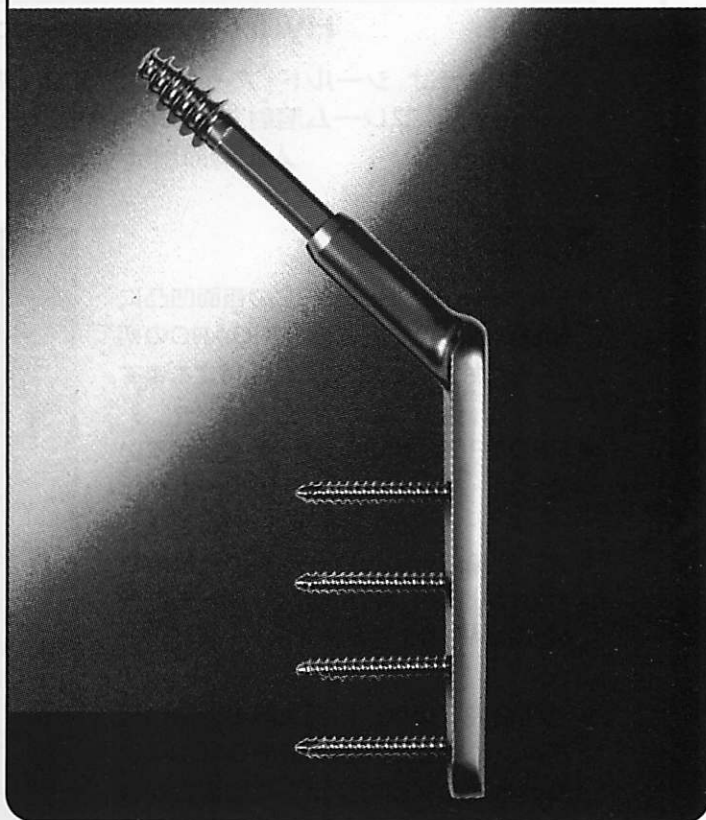
大腿骨頸部を温存する事により、近位部における強固なプレスフィットを実現しました。

(遠位部は、ポリッシング加工によりストレスを抑えます。)



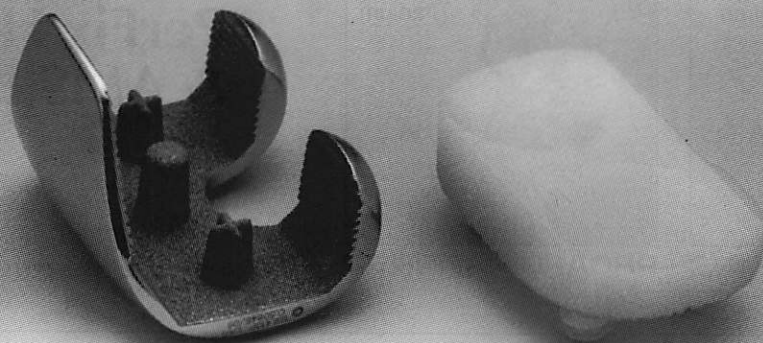
チタン・CHSシステム

開発経過に術者の意見を多く導入し、日本人の大腿骨形状に適したデザインをインプラントに反映させたCHSシステムです。



ニュー・ヤマモト・トータル・ニー・マークV

25年以上に及ぶ長い臨床経験を基に、プラズマスプレーコーティング等の新しいテクノロジーを加え、日本人の生体への適合性及び機能性をさらに追求した、セメントレス・ニー・システムです。



株式会社 エム・エム・ティー

〒540 大阪市中央区谷町5丁目3番17号 丸島アクアビル7F
TEL 06-768-2691 (代) FAX 06-768-2621



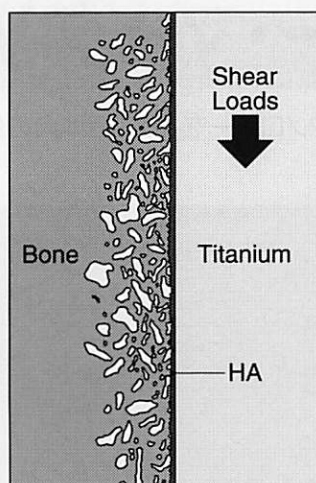
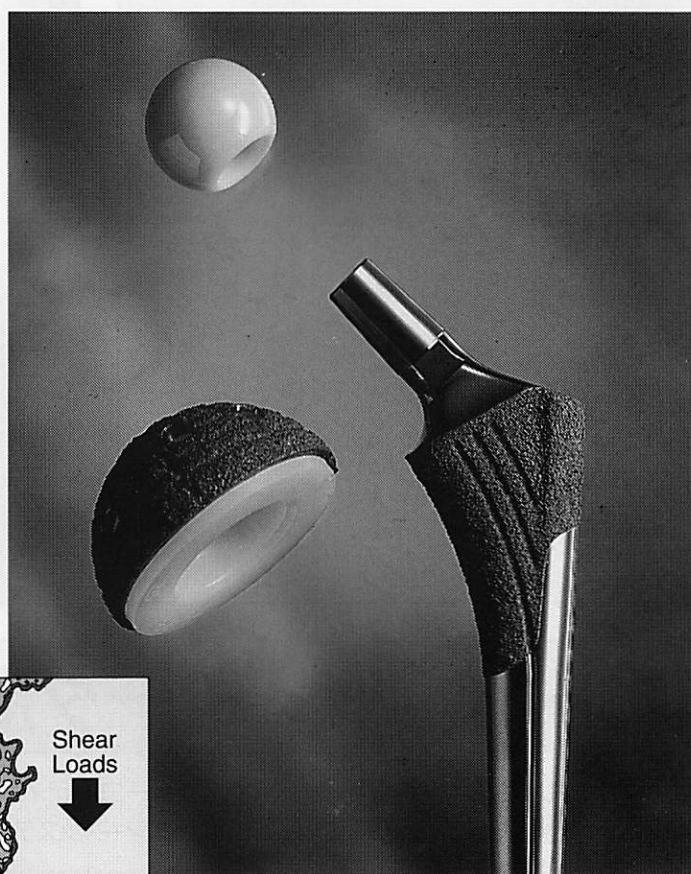
PROARC HA

Hydroxyapatite-coating on "PROARC"

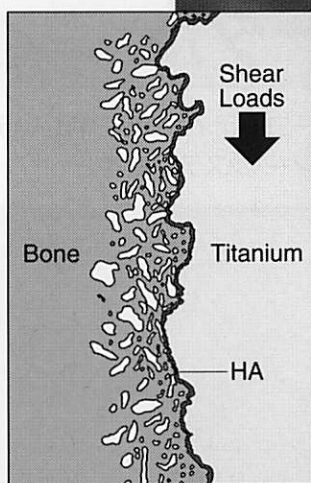
京セラは、シールド・アーク溶射法による純チタンの粗面皮膜(**PROARC**)の上に、
フレイム溶射法によりHAをコーティングした**PROARC HA**を、
人工関節用HAコーティングとして提案します。

■ 特長

- HAコート層がPROARCの粗面凹凸に
術後早期に骨を伝導し、PROARCの初
期固定性が向上することが期待されます。
- PROARC面上にHAコートを行ってい
るため、スムーズ面へのHAコートに比
べHAコート層の保持力(定着性)が高く、
人工関節の骨への打ち込みの際懸念さ
れるHAコート層の剥離等に対する抵抗
性が高いと考えられます。
- 骨癒合完了後は、内部欠陥の少ない純
チタンの粗面皮膜であるPROARCによ
り、骨との強固で安定した固定性が維
持されるものと考えられます。



スムーズ面へのHAコート断面模式図



PROARC HA断面模式図

PerFix HA STEM & AMS HA CUP

承認番号: (07B) 第0357号
(07B) 第0359号

京セラ株式会社

バイオセラム事業部

〒600 京都市下京区烏丸通仏光寺下ル
大政所町680 (住友生命烏丸通ビル2F)
TEL075-344-8233 (代表)
FAX075-344-8258

本社 〒607 京都市山科区東野北井ノ上町5-22

札幌営業所 〒060 札幌市中央区北一条西7-3 (北一条第一生命ビル)

東北営業所 〒980 仙台市青葉区大町2-2-10 (住友生命仙台青葉通ビル)

東京営業所 〒150 東京都渋谷区神宮前6-27-8 (京セラ原宿ビル2F)

名古屋営業所 〒460 名古屋市中区錦3-4-6 (東海銀行第一生命ビルディング10F)

TEL011-222-7340 (代表)

TEL022-223-7222 (代表)

TEL03-3797-4617 (代表)

TEL052-962-7420 (代表)

京都営業所 〒600 京都市下京区烏丸通仏光寺下ル大政所町680 (住友生命烏丸通ビル2F) TEL075-344-8233 (代表)

大阪営業所 〒532 大阪市淀川区宮原3-5-24 (新大阪第一生命ビル3F) TEL 06-350-2246 (代表)

広島営業所 〒730 広島市中区紙町13-11 (明治生命広島紙町ビル9F) TEL082-227-6300 (代表)

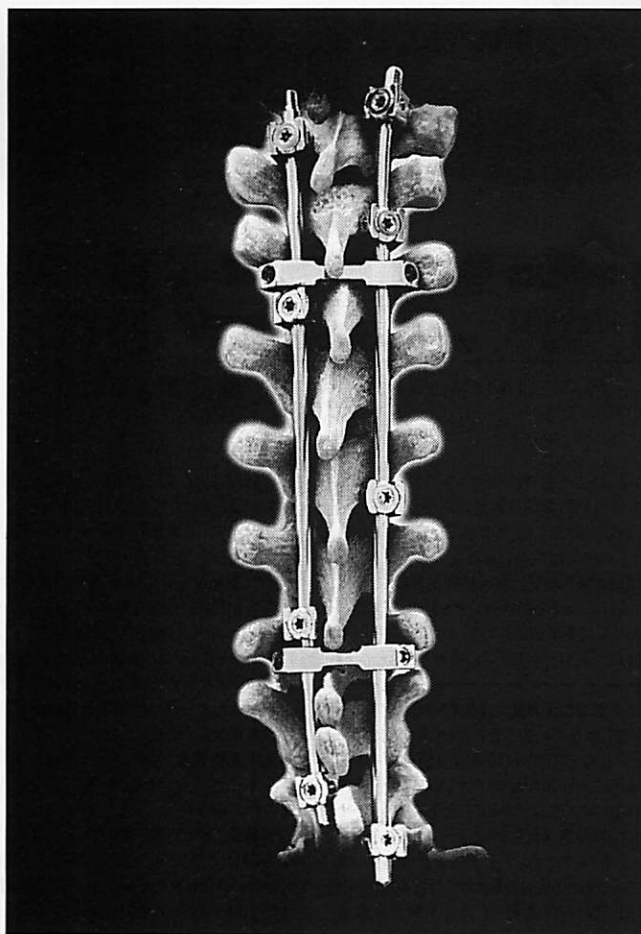
九州営業所 〒812 福岡市博多区博多駅南2-9-11 (山善福岡ビル) TEL092-472-6936 (代表)

CD HORIZON

CD ホライゾン



Simply & Low Profile



Low Profile

CD HORIZONは、インプラントの大きさを可能な限り小さくしました。

Improved Fixation Strength

すべてのインプラントの固着強度を強化し、均一にするためにSelf Breakageタイプのプラグを採用しました。

User Friendly System

CD HORIZONは、インプラントの操作性を大幅に改善しました。

- ・ 扱いやすい手術器械への改良と追加
- ・ Top LoadingとTop Tightening
- ・ スムースロッドの採用による、矯正操作性の向上
- ・ シンプルなトランスバースリンク



輸入発売元

小林 ソファモア ダネック株式会社

本社 〒553 大阪市福島区福島7-20-1 KM西梅田ビル3階 TEL.06-453-3444 FAX.06-453-3464
札幌営業所 TEL.011-622-9524 FAX.011-622-9579 大阪営業所 TEL.06-453-3488 FAX.06-453-3490
仙台営業所 TEL.022-299-2401 FAX.022-299-2405 広島営業所 TEL.082-921-4131 FAX.082-921-4234
東京営業所 TEL.03-3221-5891 FAX.03-3221-5890 福岡営業所 TEL.092-522-5360 FAX.092-522-4170
名古屋営業所 TEL.052-242-2191 FAX.052-242-2238

販売元



小林メディカル

小林製薬株式会社 小林メディカル事業部



鎮痛・消炎に... 快晴気分



鎮痛・抗炎症剤
フェニルプロピオン酸系 Prodrug

ロキソニン[®]錠細粒

【指】 一般名：ロキソプロフェンナトリウム ■薬価基準収載

【効能・効果】

手術後、外傷後並びに拔牙後の鎮痛・消炎
下記疾患並びに症状の消炎・鎮痛
慢性関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、肩関節周囲炎、頸肩腕症候群

【使用上の注意】

1. 一般的注意

(1)消炎鎮痛剤による治療は原因療法ではなく対症療法であることに留意すること。(2)慢性疾患(慢性関節リウマチ、変形性関節症)に対し本剤を用いる場合には、次の事項を考慮すること。ア、長期投与する場合には定期的に臨床検査(尿検査、血液検査及び肝機能検査等)を行うこと。また、異常が認められた場合には減量、休薬等の適切な措置を講ずること。イ、薬物療法以外の療法も考慮すること。(3)術後又は外傷に対して用いる場合には、次の事項を考慮すること。ア、炎症、疼痛の程度を考慮し、投与すること。イ、原則として同一の薬剤の長期投与を避けること。(4)患者の状態を十分観察し、副作用の発現に留意すること。(5)感染症を不顕性化するおそれがあるので、感染による炎症に対して用いる場合には適切な抗菌剤を併用し、観察を十分行い慎重に投与すること。(6)他の消炎鎮痛剤との併用は避けることが望ましい。(7)高齢者には副作用の発現に特に注意し、必要最小限の使用にとどめるなど慎重に投与すること。

2. 禁忌(次の患者には投与しないこと)

(1)消化性潰瘍のある患者[プロスタグランジン合成抑制により、胃の血流量が減少し消化性潰瘍が悪化することがある] (2)重篤な血液の異常のある患者[血小板機能障害を起こし、悪化するおそれがある] (3)重篤な肝障害のある患者[副作用として肝障害が報告されており、悪化するおそれがある] (4)重篤な腎障害のある患者[急性腎不全、ネフローゼ症候群等の副作用を発現することがある] (5)重篤な

心機能不全のある患者[腎のプロスタグランジン合成抑制により浮腫、循環体液量の増加が起こり、心臓の仕事量が増加するため症状を悪化させるおそれがある] (6)本剤の成分に過敏症の患者 (7)アスピリン喘息(非ステロイド性消炎鎮痛剤等による喘息発作の誘発)又はその既往歴のある患者[アスピリン喘息発作を誘発することがある] (8)妊娠末期の婦人[「妊婦・授乳婦への投与」の項参照]

3. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

(1)消化性潰瘍の既往歴のある患者[潰瘍を再発させることがある] (2)血液の異常又はその既往歴のある患者[溶血性貧血等の副作用が起こりやすくなる] (3)肝障害又はその既往歴のある患者[肝障害を悪化又は再発させることがある] (4)腎障害又はその既往歴のある患者[浮腫、蛋白尿、血清クレアチニン上昇等の副作用が起こることがある] (5)心機能障害のある患者[「禁忌」の項参照] (6)過敏症の既往歴のある患者 (7)気管支喘息の患者[病態を悪化させることがある] (8)高齢者[「高齢者への投与」の項参照]

4. 相互作用

併用に注意すること

(1)クマリン系抗凝剤(ワルファリン等)、スルホニル尿素系血糖降下剤(トルブタミド等)[これらの作用が増強されることがあるので減量するなど注意すること] (2)ニューキノロン系抗菌剤(エノキサシン等)[痙攣を起こすおそれがある]

5. 副作用(まれに：0.1%未満、ときに：0.1%～5%未満、副詞なし：5%以上又は頻度不明)

(1)重大な副作用

1)ショック：まれにショックを起こすことがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。2)溶血性貧血：まれに溶血性貧血があらわれることがある。3)皮膚粘膜眼症候群：まれに皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症

候群)があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。4)急性腎不全、ネフローゼ症候群：まれに急性腎不全、ネフローゼ症候群があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。5)間質性肺炎：まれに発熱、咳嗽、呼吸困難、胸部X線異常、好酸球増多等を伴う間質性肺炎があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には投与を中止し、副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。

(2)重大な副作用(類案)

再生不良性貧血：他の非ステロイド性消炎鎮痛剤で、再生不良性貧血があらわれたとの報告がある。

(3)その他の副作用

1)過敏症：ときに発疹、痒疹感、また、まれに蕁麻疹等があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。2)消化器：まれに消化器潰瘍があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。またときに腹痛、胃部不快感、食欲不振、悪心・嘔吐、下痢、便秘、胸やけ、消化不良、口内炎等があらわれることがある。3)精神神経系：ときにめまい、また、まれに頭痛等があらわれることがある。4)血液：まれに貧血、白血球減少、血小板減少、また、ときに好酸球増多があらわれることがある。5)肝臓：ときにGOT、GPT、ALPの上昇があらわれることがある。6)その他：ときに浮腫、また、まれに動悸があらわれることがある。

用法・用量、その他の使用上の注意は添付文書をご覧ください。



資料請求先

三共株式会社

〒103 東京都中央区日本橋本町3-5-1

Santen

遅すぎないうちに!!



抗リウマチ剤

薬価基準収載

⑧ ⑤
アザルフィジン®EN錠

Azulfidine® EN tablets

サラゾスルファピリジン腸溶錠



【効能・効果】慢性関節リウマチ

【用法・用量】本剤は、消炎鎮痛剤などで十分な効果が得られない場合に使用すること。

通常、サラゾスルファピリジンとして成人1日投与量1gを朝食及び夕食後の2回に分割経口投与する。

●禁忌(次の患者には投与しないで下さい)

- 1) サルファ剤又はサリチル酸製剤に対し過敏症の既往歴のある患者
- 2) 新生児、未熟児[「新生児・未熟児又は小児への投与」の項参照]

*その他の使用上の注意等については、添付文書をご参照下さい。

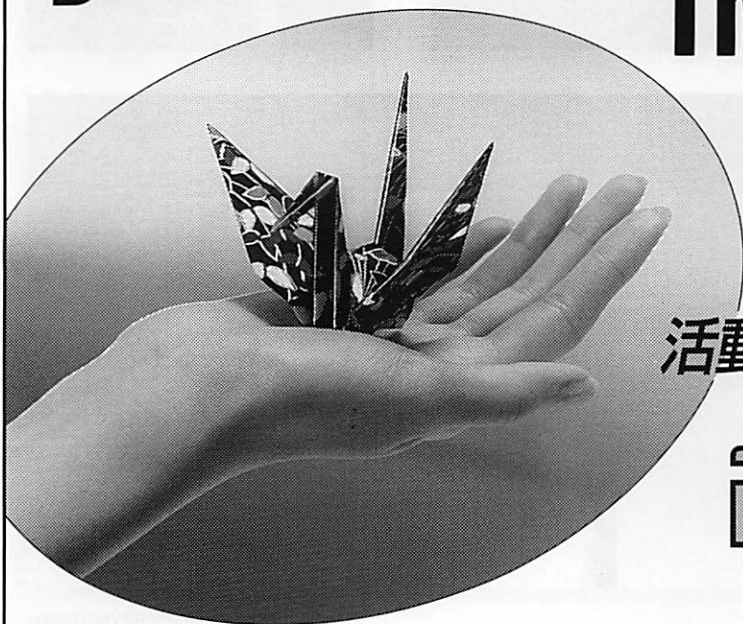
●本剤は新医薬品であるため、厚生省告示第111号(平成6年3月29日付)に基づき、平成9年11月末日まで1回30日分の投薬は認められません。

発売元 S 参天製薬株式会社
大阪市東淀川区下新庄3-9-19
資料請求先 医薬事業部 医薬情報室

製造元 ファルマシア・アップジョン株式会社
東京都港区虎ノ門4-3-13

97G/A4-2

Santen



The opening of
a better life

活動性RAに挑むDMARD

抗リウマチ剤

薬価基準収載

⑧ ⑤ R リマチル®
Rimatil® プシラミン100mg錠

⑧ ⑤ R リマチル®50
Rimatil®50 プシラミン50mg錠

※本剤は、厚生省告示第111号(平成6年3月29日付)に基づき、1回30日分投薬が認められています。

参天製薬株式会社
〒533 大阪市東淀川区下新庄3-9-19
資料請求先 医薬事業部 医薬情報室

97G/A4-2

●禁忌(次の患者には投与しないで下さい)

- 1) 血液障害のある患者及び骨髓機能の低下している患者
[骨髓機能低下による血液障害の報告がある]
- 2) 腎障害のある患者

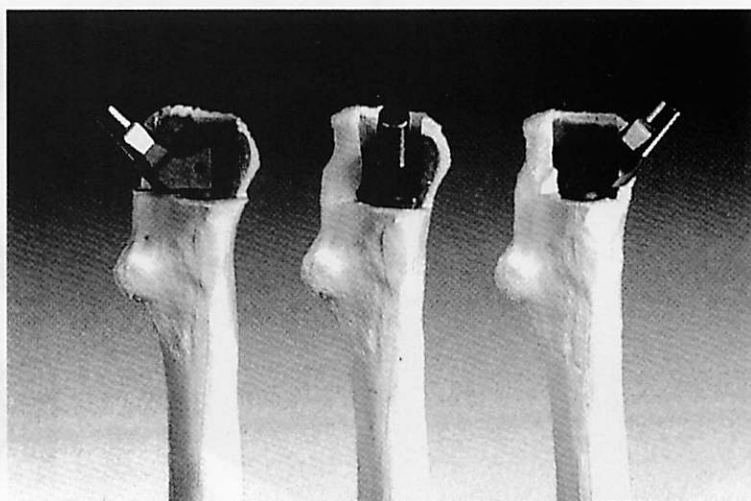
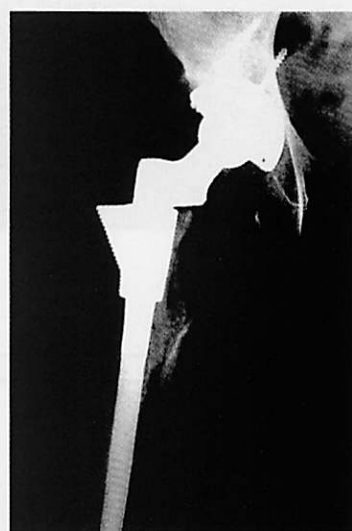
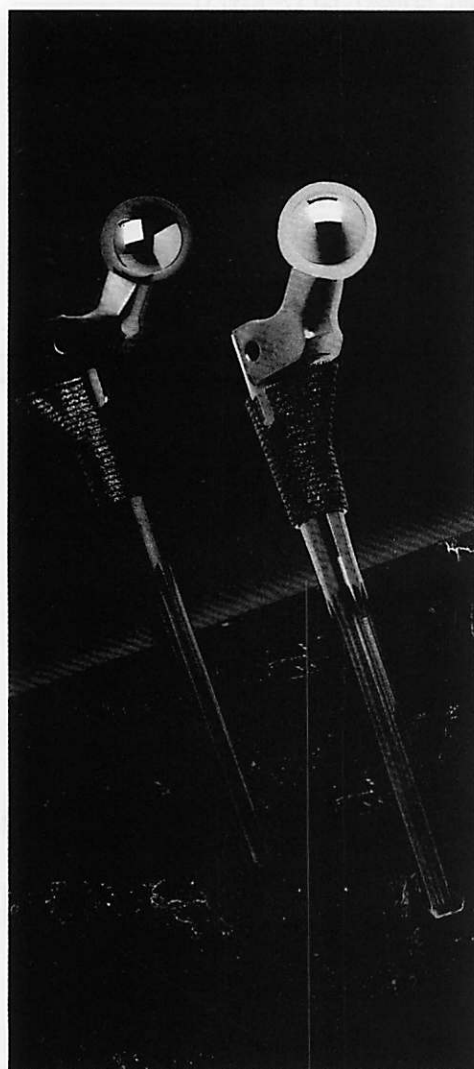
■効能・効果、用法・用量及び使用上の注意、副作用等については、添付文書をご参照下さい。

Only The S-ROM®



Johnson & Johnson
ORTHOPAEDICS

日本人に多いと言われる二次性変股症例への適応拡大のため新たに
遠位径6mm/7mmのDDH専用ステムがバリエーションに加わりました。



承認番号 20800BZY00186000

本社・東京支社 〒135 東京都江東区東陽6-3-2 イースト21タワー	☎03 (5632) 7211
札幌営業所 〒060 札幌市中央区北五条西6-2-2 札幌センタービル19F	☎011 (205) 5111
仙台営業所 〒980 宮城県仙台市青葉区中央3丁目2-1 青葉通りプラザ11F	☎022 (213) 8351
大宮営業所 〒330 埼玉県大宮市桜木町1-9-6 大宮センタービル4F	☎048 (645) 3231
横浜営業所 〒222 神奈川県横浜市港北区新横浜3-19-5 新横浜第二センタービル12F	☎045 (475) 2821
名古屋営業所 〒450 愛知県名古屋市中村区名駅4-5-28 近鉄新名古屋ビル13F	☎052 (563) 5011
大阪支店 〒541 大阪府大阪市中央区博労町3-5-1 セイコー大阪ビル20F	☎06 (258) 6660
広島営業所 〒730 広島県広島市中区中島町3-25 ニッセイ平和公園ビル7F	☎082 (249) 6711
福岡営業所 〒812 福岡県福岡市博多区博多駅南1-3-6 第三博多信成ビル8F	☎092 (441) 3774

輸入・販売元 **ジョンソン・エンド・ジョンソン メディカル 株式会社**

効能・効果追加
骨粗鬆症

はつらつと、素敵にエイジング!

骨をみつめた、New Compliance Drug

ダイドロネルは骨粗鬆症に対して、2週間投薬、10～12週間休薬を繰り返す薬剤です。



骨代謝改善剤

薬価基準収載

ダイドロネル[®]錠200

(劇) (指) (要指) Didronel[®] エチドロン酸 ニナトリウム錠

【効能・効果】

○骨粗鬆症 ○下記状態における初期及び進行期の異所性骨化の抑制 ○骨ペーজেット病 骨髄損傷後、股関節形成術後

【用法・用量】

本剤の吸収をよくするため、服薬前後2時間は食物の摂取を避けること。

○骨粗鬆症

通常、成人には、エチドロン酸 ニナトリウムとして200mgを1日1回、食間に経口投与する。投与期間は2週間とする。再投与までの期間は10～12週間として、これを1クールとして周期的間歇投与を行う。

なお、重症の場合(骨塩量の減少の程度が強い患者あるいは骨粗鬆症による安静時自発痛及び日常生活の運動時痛が非常に強い患者)には400mgを1日1回、

【使用上の注意】(抜粋)

1. 一般的注意

○骨粗鬆症の場合

(1) 本剤の適用にあたっては、厚生省「老人性骨粗鬆症の予防及び治療法に関する総合的研究班」の診断基準(骨量減少の有無、骨折の有無、腰痛の有無などの総合による)等を参考に骨粗鬆症と確定診断された患者を対象とすること。

(2) 本剤は骨の代謝回転を抑制し、骨形成の過程で骨の石灰化遅延を起こすことがある。この作用は投与量と投与期間に依存しているため、用法(周期的間歇投与：2週間投与・10～12週間休薬)及び用量を遵守するとともに、患者に用法・用量を遵守するよう指導すること。

(3) 400mg投与にあたっては以下の点を十分考慮すること。

1) 骨塩量の減少の程度が強い患者(例えばDXA法(QDR)で0.650g/cm²未満を目安とする)であること。

2) 骨粗鬆症による安静時自発痛及び日常生活の運動時痛が非常に強い患者であること。

(4) 1日400mgを投与する場合は、200mg投与に比べ腹部不快感等の消化器系副作用があらわれやすいので、慎重に投与すること。

(5) 患者には適切な栄養状態、特にカルシウムとビタミンDの適切な摂取を保持するように指導すること。

食間に経口投与することができる。投与期間は2週間とする。再投与までの期間は10～12週間として、これを1クールとして周期的間歇投与を行う。

なお、年齢、症状により適宜増減できるが、1日400mgを超えないこと。

○下記状態における初期及び進行期の異所性骨化の抑制

骨髄損傷後、股関節形成術後

通常、成人には、エチドロン酸 ニナトリウムとして800～1000mgを1日1回、食間に経口投与する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

○骨ペーজেット病

通常、成人には、エチドロン酸 ニナトリウムとして200mgを1日1回、食間に経口投与する。

なお、年齢、症状により適宜増減できるが、1日1000mgを超えないこと。

2. 禁忌(次の患者には投与しないこと)

- (1) 重篤な腎障害のある患者(排泄が阻害されるおそれがある。)
- (2) 骨軟化症の患者(骨軟化症が悪化するおそれがある。)
- (3) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人(「妊婦・授乳婦への投与」の項参照)
- (4) 小児(「小児への投与」の項参照)

※(5) 本剤に対し過敏症の既往歴のある患者

3. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- (1) 腎障害のある患者(排泄が阻害されるおそれがある。)
- (2) 消化性潰瘍、腸炎の患者(本剤の主な副作用は消化器系であるため、症状が悪化するおそれがある。)

■その他の「使用上の注意」等につきましては添付文書をご覧ください。

★1997年2月改訂(—:改訂箇所)
★1996年7月改訂

住友製薬

製造発売元 (資料請求先)
住友製薬株式会社
〒541 大阪市中央区道修町2丁目2番8号



ナイアカラの滝(カナダ)

血流は、胃を守る。

■効能・効果

- 下記疾患の胃粘膜病変(びらん、出血、発赤、浮腫)の改善

急性胃炎、慢性胃炎の急性増悪期

●胃潰瘍

■使用上の注意

下記のことにご注意ください。

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

1) 血栓のある患者(脳血栓、心筋梗塞、血栓性静脈炎等)
〔本剤は代謝されてトラネキサム酸を生ずるので、血栓を安定化させるおそれがある。〕

2) 消費性凝固障害のある患者
〔本剤は代謝されてトラネキサム酸を生ずるので、血栓を安定化させるおそれがある。〕

2. 副作用

(「まれに」:0.1%未満「ときに」:0.1~5%未満 副詞なし:5%以上または頻度不明)

1) 消化器 ときに口渇、悪心・嘔吐、下痢、便秘、胃部不快感・膨満感等があらわれることがある。

2) 過敏症 ときに発疹、掻痒感等があらわれることがあるので、このような場合には投与を中止すること。

3) その他 まれにGOT、GPTの上昇等があらわれることがある。

3. 妊婦への投与

妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦または妊娠している可能性のある婦人には治療上の有益性が危険性を上まわると判断される場合にのみ投与すること。

4. 適用上の注意

薬剤交付時:PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。(PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。)

★用法・用量等につきましては、製品添付文書をご参照ください。B2

胃炎(急性胃炎、慢性胃炎の急性増悪期) 胃潰瘍の治療に

粘膜防御性 胃炎・胃潰瘍治療剤 薬価基準収載

ノイエル®

カプセル S(40%細粒)〈0.5g分包装〉
指S(40%細粒)

Neuer®

一般名: 塩酸セトラキサート

いのち、ふくらまそう。



第一製薬株式会社

資料請求先
東京都中央区日本橋三丁目14番10号

【効能・効果】貯血量が800ml以上で1週間以上の貯血期間を予定する手術施行患者の自己血貯血

【使用上の注意】—抜粋—

1. 一般の注意

(1) 本剤使用時の注意

- 1) 本剤の投与は手術施行予定患者の中で貯血式自己血輸血施行例を対象とすること。なお、造血機能障害を伴う疾患における自己血貯血の場合には、本剤の効果及び安全性が確認されていないため投与しないこと。
 - 2) 本剤投与中はヘモグロビン濃度あるいはヘマトクリット値を定期的に観察し、過度の上昇（原則としてヘモグロビン濃度で14g/dl以上、ヘマトクリット値で42%以上を目安とする）が起こらないように注意すること。このような症状があらわれた場合には、休薬あるいは採血等適切な処置を施すこと。
 - 3) ショック等の反応を予測するため十分な問診をすること。なお、投与開始時あるいは休薬後の初回投与時には、本剤の少量で皮内反応を行い、異常反応の発現しないことを確認後、全量を投与することが望ましい。
 - 4) 本剤のうちエポジン注1500、エポジン注3000は安定化剤として精製ゼラチン含有している。ゼラチン含有製剤の投与により、ショック、アナフィラキシー様症状（蕁麻疹、呼吸困難、口唇浮腫、喉頭浮腫等）があらわれたとの報告があるため、問診を十分にを行い、投与後は観察を十分に行うこと。
 - 5) GOT、GPTの上昇等の肝機能異常を認めた場合には、本剤投与の中止等適切な処置を施すこと。
 - 6) 本剤の効果発現には鉄の存在が重要であり、鉄欠乏時には鉄剤の投与を行うこと。
- (2) 貯血式自己血輸血に伴う一般の注意
- 1) 術前貯血式自己血輸血の対象は、その施設の従来の経験あるいは記録等より輸血を施行することが確実と予想される患者に限ること。
 - 2) 採血に先立って患者に貯血式自己血輸血について十分説明するとともに、その趣旨と採血血液の不使用の際の処分等につき患者の同意を得ること。
 - 3) 自己血採血は、ヘモグロビン濃度が11g/dl（ヘマトクリット値33%）未満では施行しないことが望ましい。
 - 4) 採血は1週間前後の間隔をもって行い、採血量は1回400mlを上限とし、患者の年齢、体重、採血時の血液検査所見及び血圧、脈拍数等を考慮して決定すること。
 - 5) 自己血採血時には採血を行う皮膚部位をボビドンヨード液等で十分に消毒し、無菌性を保つこと。
 - 6) 最終採血は血漿蛋白量の回復期間を考慮し手術前3日以内は避けることが望ましい。
 - 7) 「増化ビニル樹脂製血液セット基準（昭和40年9月28日厚生省告示第448号）」の規格に適合し、「生物学的製剤基準：人全血液」に規定された所定量の血液保存液（CPD液等）を注入した採血セット等を用いて採血し、閉鎖回路を無菌的に保ちながら保存すること。
 - 8) 血液保存容器には自己血であることを明記するとともに、氏名、採血年月日、ABO式血液型の別等を表示しておくこと。
 - 9) 採血後の保存血液は温度記録計の設置されている保冷庫（血液保存庫）中で4～6℃で保管し、血液の返血は保存血液の有効期限内に行うこと。
 - 10) 保存血液の返血は、患者本人の血液であることを十分確認してから施行すること。また、外観上異常を認めた場合は使用しないこと。

2. 禁忌（次の患者には投与しないこと）

本剤又は他のエリスロポエチン製剤に過敏症の患者

3. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

- (1) 心筋梗塞、肺梗塞、脳梗塞等の患者、又はそれらの既往歴を有し血栓性症を起こすおそれのある患者 [本剤投与により血液粘度が上昇するとの報告があり、血栓性症を増悪あるいは誘発するおそれがある。また、特に自己血貯血に使用する場合には、術後は一般に血液凝固機能が亢進するおそれがあるため観察を十分に行うこと。]
- (2) 高血圧症の患者 [本剤投与により血圧上昇を認める場合があり、また、高血圧性脳症があらわれることがある。]
- (3) 薬物過敏症の既往歴のある患者
- (4) アレルギー要因のある患者
- (5) ゼラチン含有製剤又はゼラチン含有の食品に対して、ショック、アナフィラキシー様症状（蕁麻疹、呼吸困難、口唇浮腫、喉頭浮腫等）等の過敏症の既往歴のある患者（エポジン注6000は除く）

4. 副作用（まれに：0.1%未満、ときに：0.1～5%未満、頻度不明）

(1) 重大な副作用

- 1) ショック：まれにショックを起こすことがあるので、観察を十分に行い異常が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。
- 2) 高血圧性脳症：急激な血圧上昇により、頭痛、意識障害、痙攣等を示す高血圧性脳症があらわれ、脳出血に至る場合があるので、血圧、ヘマトクリット値等の推移に十分注意しながら投与すること。
- 3) 脳梗塞：脳梗塞があらわれることがあるので、観察を十分に行い異常が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

8. 適用上の注意

調製時

- (1) 本剤を投与する場合は他剤との混注を行わないこと。



赤血球をつくる!!

手術施行予定患者における自己血貯血

※用法・用量、その他の使用上の注意、取扱い上の注意等については添付文書をご参照下さい。
なお、効能・効果、透析導入前の腎性貧血、透析施行中の腎性貧血（エポジン注6000は除く）の「使用上の注意」等についても添付文書をご参照下さい。



遺伝子組換えヒトエリスロポエチン製剤

薬価基準収載

劇指要

エポジン®

1500
3000
6000

EPOGIN Injection 一般名：エポエチン ベータ（遺伝子組換え）



中外製薬

（資料請求先）
〒104 東京都中央区京橋 2-1-9

CEP5264

アンリームド ネイルシステム

Ti UFN

Unreamed Femoral Nail

Ti UTN

Unreamed Tibial Nail

アンリームド ネイルシステムは、リーミングを必要としない髓内釘です。ソリッド(中実)デザインで、挿入後、髓内の死腔を最小限に抑え、感染の危険性が少ないので、開放性骨折にも使用できます。

リーミングによって生じる、髓腔内圧の上昇による血圧変化・微小血管レベルでの塞栓・管状腐骨形成等、多くの弊害を軽減します。出血量も少なく、内骨膜性の血行を最大限に温存できるため、治癒能力を疎外することなしに挿入ができます。

- ・アンリームド フェモラルネイル
- ・スパイラルブレード ロッキング



ロッキングバリエーション

大腿骨用髓内釘は130° ロッキング、スパイラルブレードロッキング、ミスエイネイルテクニックの選択ができるので、骨幹部骨折から頸部骨折にも適応が広がりました。

ダイナミックスロット

近位部のダイナミックスロットにより、最大10mm迄のダイナマイゼーションが可能です。

Ti-6Al-4V

生体親和性に優れ、医療材料に必要な強度とフレキシビリティを併せもつチタニウム合金製です。

承認番号 08B輸0026号

SYNTHES® ■ 日本マティス株式会社

東京本社/〒105 東京都港区芝公園1丁目2番9号 ハナイビル4F
TEL. 03-3459-6851(代表) FAX. 03-3459-6853

札幌営業所/〒060 札幌市北区北6条西1丁目3番地8 38山京ビル8F
TEL. 011-726-4361(代表) FAX. 011-726-4364

仙台営業所/〒980 仙台市青葉区立町23番11号 高速ビル6F
TEL. 022-267-2841(代表) FAX. 022-267-2884

金沢営業所/〒920 金沢市広岡1丁目1番35号 金沢第2ビル4F
TEL. 0762-62-3421(代表) FAX. 0762-62-3425

東京営業所/〒113 東京都文京区小日向4丁目5番16号 ツインヒルズ茗荷谷5F
TEL. 03-5976-6511(代表) FAX. 03-5976-6522

名古屋営業所/〒460 名古屋市中区栄1丁目13番2号 愛織第2ビル4F
TEL. 052-211-6451(代表) FAX. 052-211-6454

大阪営業所/〒532 大阪市淀川区宮原4丁目3番12号 新大阪明幸ビル4F
TEL. 06-399-1821(代表) FAX. 06-399-1825

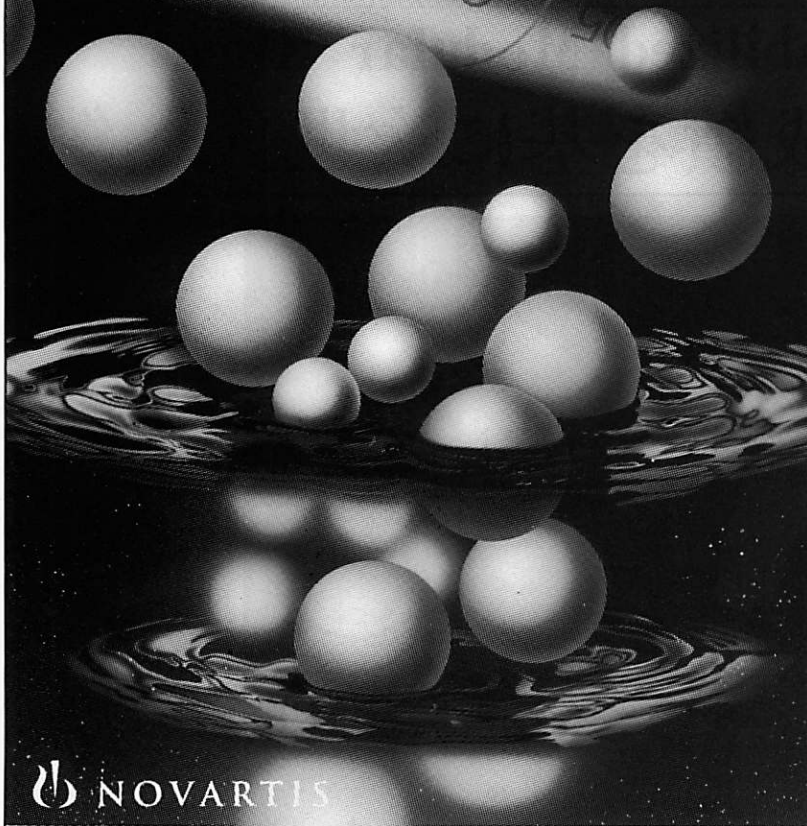
岡山営業所/〒700 岡山市桑田町18番28号 明治生命桑田町ビル4F
TEL. 086-222-8261(代表) FAX. 086-222-8210

福岡営業所/〒810 福岡市博多区中洲中島町2番3号 福岡フジランドビル12F
TEL. 092-262-5601(代表) FAX. 092-262-5670

物流センター/〒140 東京都品川区勝島1丁目1番1号 佐川急便東京SRC内A館7F
TEL. 03-3768-8861(代表) FAX. 03-3768-0068

Quick & Slow

1日2回のボルタレンSRカプセル



■効能・効果/下記の疾患並びに症状の鎮痛・消炎 慢性関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、肩関節周囲炎、頸肩腕症候群 ■組成/ボルタレンSRカプセルは、日本薬局方ジクロフェナクナトリウムの速溶性顆粒と徐放性顆粒を3:7の割合で混合し、白色の硬カプセルに充填した製剤で、1カプセル中にジクロフェナクナトリウム37.5mgを含有する。添加物(カプセル本体中):亜硫酸水素ナトリウム、ラウリル硫酸ナトリウム ■用法・用量/通常、成人にはジクロフェナクナトリウムとして1回37.5mgを1日2回食後に経口投与する。

- ★1日2回の服用で、コンプライアンスが良い。
- ★慢性関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症等の慢性疾患に優れた臨床効果を発揮する。
- ★関節液、滑膜へ良行な移行を示し、関節腔内に長時間維持される。(ヒト)
- ★副作用は6189例中290例(4.7%)

主なものは胃痛、胃部不快感などの消化器症状(1994年12月集計)

本剤の効能・効果のうち慢性関節リウマチに加えて、
平成6年4月1日より変形性関節症に対しても
1回30日間分投薬が認められています。
(厚生省告示第111号 平成6年3月29日付)

徐放性鎮痛・抗炎症剤

ボルタレン® SRカプセル

ジクロフェナクナトリウムカプセル

®:登録商標

日本チバガイギー(株)の医薬品は、サンド
薬品(株)との統合により、平成9年4月1日
からノバルティス ファーマ株式会社の販売に
なりました。

(資料請求先)

ノバルティス ファーマ株式会社

東京都港区西麻布4-17-30 ☎106

■使用上の注意(一部抜粋)/1. 一般的注意(1)消炎鎮痛剤による治療は原因療法ではなく対症療法であることに留意すること。(2)患者の状態を十分に観察し、副作用の発現に留意すること。過度の体温下降、虚脱、四肢冷却等があらわれることがあるので、特に高熱を伴う高齢者又は消耗性疾患の患者においては、投与後の状態に十分注意すること。(3)慢性疾患(慢性関節リウマチ、変形性関節症等)に対し本剤を用いる場合には、次の事項を考慮すること。(4)長期投与する場合には、定期的に臨床検査(尿検査、血液検査及び肝機能検査等)を行うこと。また、異常が認められた場合には、減量、休薬等の適切な措置を講ずること。(5)薬物療法以外の療法も考慮すること。(6)感染症を不顕性化する場合があるので、感染症を合併している患者に対して用いる場合には適切な抗菌剤を併用し、観察を十分行い慎重に投与すること。(7)他の消炎鎮痛剤との併用は避けることが望ましい。(8)本剤投与中に眠気、めまい、霧視を訴える患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないように十分注意すること。

2. 禁忌(次の患者には投与しないこと)(1)消化性潰瘍のある患者(消化性潰瘍を悪化させる)(2)重篤な血液の異常のある患者(副作用として血液障害が報告されているため血液の異常をさらに悪化させるおそれがある)(3)重篤な肝障害のある患者(副作用として肝障害が報告されているため肝障害をさらに悪化させることがある)(4)重篤な腎障害のある患者(腎血流量低下作用があるため腎障害をさらに悪化させることがある)(5)重篤な高血圧症のある患者(プロスタグランジン合成阻害作用に基づくNa・水分貯留傾向があるため血圧をさらに上昇させるおそれがある)(6)重篤な心機能不全のある患者(プロスタグランジン合成阻害作用に基づくNa・水分貯留傾向があるため心機能を悪化させるおそれがある)(7)本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者(8)アスピリン喘息(非ステロイド性消炎鎮痛剤等により誘発される喘息発作)又はその既往歴のある患者(重症喘息発作を誘発する)

3. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)(1)消化性潰瘍の既往歴のある患者(消化性潰瘍を再発させることがある)(2)血液の異常又はその既往歴のある患者(血液の異常を悪化又は再発させるおそれがある)(3)出血傾向のある患者(血小板機能異常が起こることがあるため出血傾向を助長するおそれがある)(4)肝障害又はその既往歴のある患者(肝障害を悪化又は再発させることがある)(5)腎障害又はその既往歴のある患者(腎血流量低下作用があるため腎障害を悪化又は誘発することがある)(6)腎血流量が低下しやすい患者(心機能障害のある患者、利尿剤投与中の患者、腹水を伴う肝硬変のある患者、大手術後、高齢者等では有効循環血流量が低下傾向にあり、腎血流量が低下しやすいので、腎不全を誘発するおそれがある)(7)高血圧症のある患者(プロスタグランジン合成阻害作用に基づくNa・水分貯留傾向があるため血圧をさらに上昇させるおそれがある)(8)心機能障害のある患者(プロスタグランジン合成阻害作用に基づくNa・水分貯留傾向があるため心機能を悪化させるおそれがある)(9)SLE(全身性エリテマトーデス)の患者(SLE症状(腎障害等)を悪化させるおそれがある)(10)過敏症の既往歴のある患者(11)気管支喘息のある患者(気管支喘息患者の中にはアスピリン喘息患者も含まれており、それらの患者では重症喘息発作を誘発する)(12)潰瘍性大腸炎の患者(症状が悪化したとの報告がある)(13)クローン病の患者(症状が悪化したとの報告がある)(14)食道通過障害のある患者(食道に停留し食道潰瘍を起こすおそれがある)(15)高齢者(副作用、特に過度の体温下降・血圧低下によるショック症状があらわれやすい)

4. 相互作用 併用に注意すること(1)ニューキノロン系抗菌剤(痙攣を起こすおそれがある)(2)リチウム製剤、ジゴキシン、メトトレキサート製剤(これらの作用を増強することがある)(3)アスピリン(相互作用が减弱されることがある)(4)フロセミド、チアジド系利尿剤(これらの作用を減弱することがある)(5)副腎皮質ステロイド剤(相互作用(特に胃腸障害等)が増強されることがある)(6)カマリン系抗凝薬(出血の危険性が増大するとの報告があるので、血液凝固能検査等出血管理を十分に行うこと)(7)シクロスポリン(腎毒性を増強するとの報告があるので、腎機能に十分注意すること)(8)トリウムテレン(急性腎不全があらわれたとの報告がある)

5. 副作用(まれに:0.1%未満、ときに:0.1%~5%未満、副詞なし:5%以上又は頻度不明)(1)重大な副作用:まれに以下のような副作用があらわれることがある。このような副作用があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。①ショック(胸内苦悶、冷汗、呼吸困難、四肢冷却、血圧低下等)②出血性ショック又は穿孔を伴う消化性潰瘍③再生不良性貧血、溶血性貧血、無顆粒球症④皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症候群)、中毒性表皮壊死症(Lyell症候群)、紅皮症(剥脱性皮膚炎)⑤急性腎不全(間質性腎炎、腎乳頭壊死等)(症状・検査所見:乏尿、血尿、尿蛋白、BUN・血中クレアチニン上昇、高カリウム血症、低アルブミン血症等)、ネフローゼ症候群⑥重症喘息発作(アスピリン喘息)⑦間質性肺炎⑧うっ血性心不全⑨無菌性髄膜炎(項部硬直、発熱、頭痛、悪心・嘔吐あるいは意識混濁等)(特にSLE又はMCTD等のある患者では注意すること。)(2)重大な副作用(外国症例)外国において重篤な肝障害(広範な肝壊死等)が報告されているので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

■包装/カプセル(37.5mg):100カプセル・1000カプセル
■薬価基準収載

製造/同仁医薬化工株式会社(東京都中野区弥生町5丁目2番2号)
販売/ノバルティスファーマ株式会社(東京都港区西麻布4-17-30)

その他の使用上の注意等詳細につきましては、製品の添付文書をご覧ください。

I/B II

Posterior Stabilized Modular Knee

“優れた臨床成績を基に次世代へ”



承認番号 (01日輸) 第1220号

Long-term clinical data proves effectiveness

I/B Knee Systemは、米国において1978年臨床使用されて以来何千症例という実績を有しています。ホスチリアスチライズド(P/S)型のROMは115°、そしてサブインバル・レートは極めて高く98%と報告されています。これまで数多くの人工膝関節システムが開発され臨床に使用されてきましたが、10年以上の永きにわたり良好な成績を修めてきた人工膝関節は極く稀であり、この点において、さらに改良されたI/B IIを今後も安心して使用していただけるものと確信しています。



ジラ・ヒル・カワセ医療株式会社
TEL 03-5323-8500(代表)

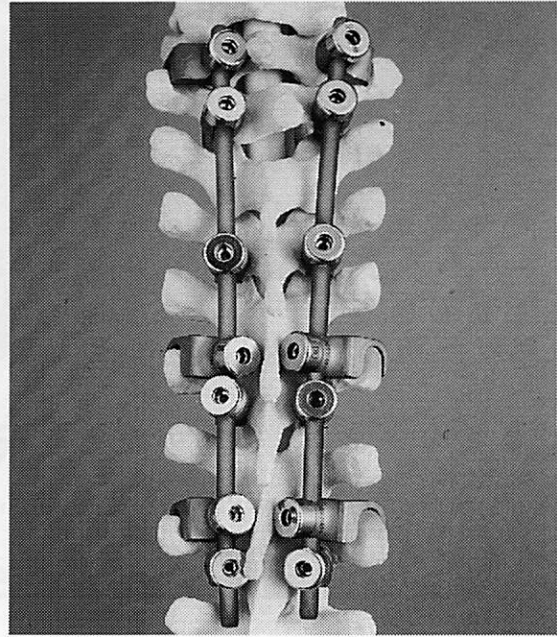
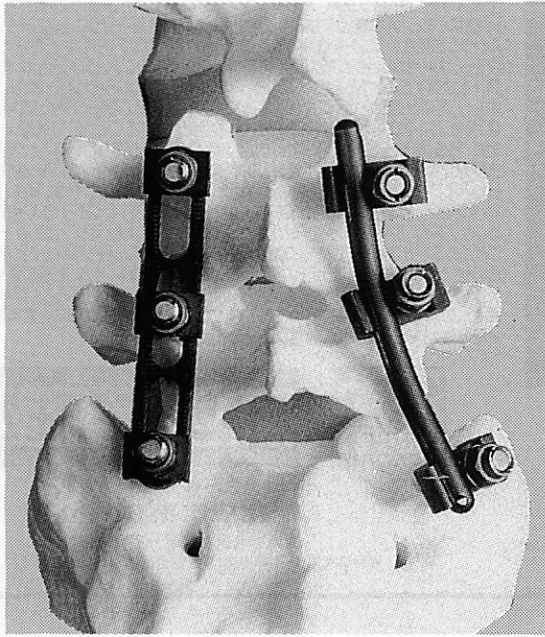
本社 〒163-13 東京都新宿区西新宿6丁目5番1号 新宿アクトビル27F

御殿場事業所 〒412 静岡県御殿場市中畑1656番地の1
TEL 0550-89-8500(大代表)

北海道営業所 TEL.011-716-4221(代表)
東北営業所 TEL.022-263-3771(代表)
北関東営業所 TEL.048-644-7288(代表)
東京支店 TEL.03-3816-1234(代表)
神奈川営業所 TEL.045-472-2190(代表)
静岡営業所 TEL.0550-89-8511(代表)
名古屋営業所 TEL.052-937-9621(代表)
北陸営業所 TEL.0762-63-6703(代表)
関西支店 TEL.06-394-1230(代表)
岡山営業所 TEL.086-233-2205(代表)
広島営業所 TEL.082-241-8020(代表)
九州営業所 TEL.092-474-1282(代表)

stryker ^{ツース}2S / DIAPASON

ディアパゾン胸・腰椎固定システム



信頼性へのシンプルな選択。

ディアパゾンはチタン合金製の新しいタイプのペディクルスクリューステムです。独自のジョイントシステムと最小限の手術器械でよりフレキシブルな胸・腰椎の矯正及び固定を可能にしました。

- 円錐形のペディクルスクリューによる確かな安定性
- プレート/ロッドの選択でフレキシブルに対応
- スクリューホールを破壊せず強固に固定
- 高い信頼性を誇るチタン合金製
- 最小限の専用器械
- 広範な適応
- 手技が容易

DIMSO
Subsidiary of
stryker
米国 ストライカー社

承認番号：4日輸第735号

日本総代理店

株式会社 **松本医科器械**
MATSUMOTO MEDICAL INSTRUMENTS, INC.

541 大阪市中央区淡路町2丁目4-7

大阪本社：第一事業部 TEL(06)203-7651
FAX(06)226-1713

● 札幌 TEL(011)727-8981
● 名古屋 TEL(052)264-1481
● 広島 TEL(082)293-3610

東京支店：第一事業部 TEL(03)3814-6683
FAX(03)3814-8124

● 仙台 TEL(022)234-4511
● 金沢 TEL(076)223-5221
● 福岡 TEL(092)474-1191

● 横浜 TEL(045)423-3911
● 岡山 TEL(086)246-6266
● 浦和 TEL(048)825-2110

骨粗鬆症の治療に!

週1回投与で骨量改善



骨粗鬆症の適応症が認められた初のカルシトニン製剤

特性

1. 天然ウナギカルシトニンのS-S結合をC-C結合に変えた合成ウナギカルシトニン誘導体の骨粗鬆症治療剤です。
2. 20単位週1回の投与により骨粗鬆症に対して、骨量改善効果を示します。
3. 骨吸収抑制作用を示し、骨粗鬆症の骨吸収亢進状態を改善します。(in vitro, in vivo)
4. 骨形成促進作用を有することが示唆されています。(in vitro, in vivo)
5. 副作用発現例は、総症例221例中16例で、発現頻度は7.2%でした。

■効能・効果／骨粗鬆症

■用法・用量／通常、成人には1回エルカトニンとして20エルカトニン単位を週1回筋肉内注射する。

■使用上の注意(抜粋)／1. 一般の注意 (1)本剤の適用にあたっては、厚生省「老人性骨粗鬆症の予防及び治療に関する総合的研究班」の診断基準(骨量減少の有無、骨折の有無、腰痛の有無などの総合による)等を参考に、骨粗鬆症との診断が確立した患者を対象とすること。(2)本剤はポリペプチド製剤であり、ショック症状を起こす可能性がある。アレルギー既往歴、薬物過敏症等について十分な問診をすること。(3)ラットに1年間大量皮下投与した慢性毒性試験において、下垂体腫瘍の発生頻度の増加がみられたとの報告があるので、長期にわたり過剰に投与しないこと。

2. 禁忌(次の患者には投与しないこと) 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

3. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1)発疹(紅斑、麻疹等)等の過敏症状を起こしやすい体質の患者 (2)気管支喘息又はその既往歴のある患者[喘息発作を誘発するおそれがある。] 4. 相互作用 併用に注意すること ビスホスホン酸塩系骨吸収抑制剤(パドロン酸ナトリウム)[血清カルシウムが急速に低下するおそれがある。] 5. 副作用 (まれに:0.1%未満、ときに:0.1~5%未満、副詞なし:5%以上又は頻度不明) (1)重大な副作用 1)ショック まれにショックを起こすことがあるので、観察を十分に行い、症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。2)テタニー 低カルシウム血症性テタニーを誘発することがあるので、症状があらわれた場合には投与を中止し、注射用カルシウム剤の投与等適切な処置を行うこと。3)喘息発作 まれに喘息発作を誘発することがあるので、観察を十分に行い、症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと(「3. 慎重投与」の項参照)。(2)その他の副作用 1)過敏症 発疹、じんま疹等があらわれた場合には投与を中止すること。2)循環器 ときに顔面潮紅、熱感、胸部圧迫感、動悸、また、血圧上昇、血圧低下があらわれることがある。3)消化器 ときに悪心、嘔吐、食欲不振、口内炎、また、まれに腹痛、下痢、口渇、胸やけ等があらわれることがある。4)神経系 ときにめまい、ふらつき、まれに頭痛、耳鳴、視覚異常(かすみ目等)があらわれることがある。5)肝臓 まれにGOT、GPTの上昇があらわれることがある。6)電解質代謝 まれに低ナトリウム血症、また、低リン血症があらわれることがある。7)注射部位 ときに疼痛、また、発赤、腫脹等があらわれることがある。8)その他 ときに痒痒感、また、まれに発汗、指先のしびれ、頻尿、浮腫、咽喉部異和感(咽喉部ハッカ様快感等)、発熱、悪寒、脱力感、全身倦怠感があらわれることがある。6. 高齢者への投与 一般に高齢者では生理機能が低下しているので用量に注意すること。*その他の詳細については、添付文書をご参照ください。



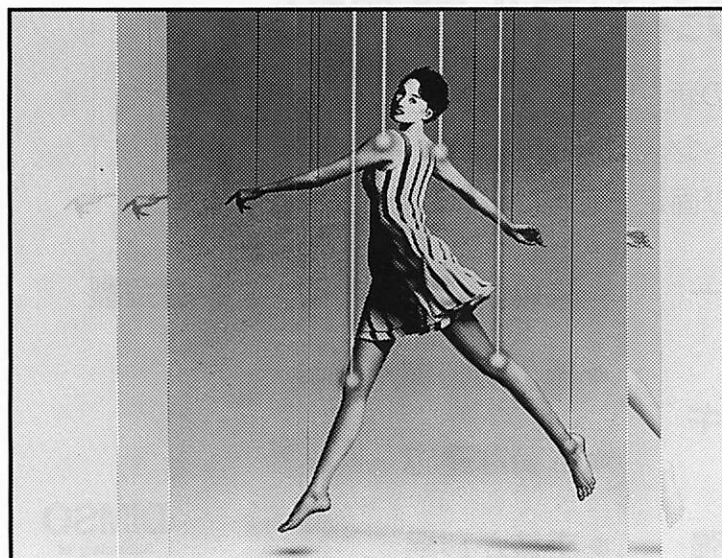
製造発売元

旭化成工業株式会社

大阪市北区堂島浜一丁目2番6号

資料請求先 医薬学術部:東京都港区芝浦4丁目5番13号

H7.7



ARTZ[®]
ARTZ Dispo.[®]
●薬価基準収載



(効能・効果)

変形性膝関節症、肩関節周囲炎

禁忌(次の患者には投与しないこと)

本剤に対する過敏症の既往歴のある患者

●用法・用量、その他の使用上の注意等の詳細は、添付文書をご参照ください。

(製造元)



生化学工業株式会社
東京都中央区日本橋本町2-1-5



科研製薬株式会社
東京都文京区本駒込2丁目28-8

(資料請求先)

〒103 東京都中央区日本橋本町4-8-14 学術部

(1996年6月作成)

9512

① アルツ[®]
① アルツ ディスポ[®]
(ヒアルロン酸ナトリウム関節内注射液)

「本物は変わらない」持続する炎症にレリフェン



■効能・効果

下記疾患並びに症状の消炎・鎮痛

慢性関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、頸肩腕症候群、肩関節周囲炎

■用法・用量

通常成人にはナブメトンとして800mgを1日1回食後に経口投与する。

なお、年齢・症状により適宜増減する。

禁忌(次の患者には投与しないこと)

- (1)消化性潰瘍のある患者
- (2)重篤な血液の異常のある患者
- (3)重篤な肝障害のある患者
- (4)重篤な腎障害のある患者
- (5)本剤に過敏症の患者
- (6)アスピリン喘息(非ステロイド性消炎鎮痛剤等による喘息発作の誘発)又はその既往歴のある患者
- (7)妊娠末期の婦人(「妊婦、授乳婦への投与」の項参照)

※その他「使用上の注意」等の詳細は添付文書をご覧ください。

持続性抗炎症・鎮痛剤(ナブメトン製剤)®
レリフェン錠
 RELIFEN 400
健保適用

(資料請求先)
 株式会社 三和化学研究所
 本社/名古屋市東区東外堀町35番地 〒461
 TEL (052) 951-8130 FAX (052) 950-1305

SB スミスクラインピーチャム
 英国 ミドルセックス

新 発 売



経口用セフェム系抗生物質製剤

①指
要指 **フロモックス®**
 錠 75mg・100mg, 小児用細粒 100mg

日抗基 塩酸セフカペン ピボキシル錠/粒 略号CFPN-PI

■薬価基準収載 ■「効能・効果」、「用法・用量」、「使用上の注意」の詳細については、添付文書をご参照下さい。

〔資料請求先〕塩野義製薬株式会社 製品部 フロモックス係 〒553 大阪市福島区鷺洲5丁目12-4



シオノギ製薬
 大阪府中央区道修町 3-1-8 〒541

 住友製薬

ボーンセラム[®]P

骨補填材

BONECERAM-P

承認番号62日第1201号

バイオフィUNCTIONショナルな機能設計に基づいて
製造されたハイドロオキシアパタイトです。

■特徴

1. 骨動態学的特性を有しています。
2. 生体適合性が優れています。
3. 生物学的安全性が認められています。
4. 力学的強度が優れています。
5. 臨床的有用性が認められています。

■性能、使用目的、効能または効果

骨または関節手術における骨補填。

■使用上の注意

1. 本品使用の際は、無菌的に取り扱うこと。
2. 本品は滅菌済包装してあるので、手術直前に開封し、すみやかに使用すること。
3. 開封したものは再使用しないこと。
4. 本品は、できるだけ清潔な場所で保管すること。
5. 高度の荷重がかかる関節面の直下などにおける本品の単独使用は避けること。

■使用方法

採骨部位または骨欠損部位に、予め生理食塩液に浸漬した成形加工品
または顆粒を、充填又は補填する。

製造元

住友大阪セメント株式会社
東京都千代田区神田美土代町1番地

販売元

住友製薬株式会社
大阪市中央区道修町2丁目2番8号

連絡先 住友製薬株式会社 診断薬機器部

〒541 大阪市中央区伏見町2丁目1番1号 TEL.(06) 229-5649
〒101 東京都千代田区神田駿河台3丁目11番地 TEL.(03)5280-6643
〒980 仙台市青葉区中央4丁目6番1号 TEL.(022)261-2651
〒450 名古屋市中村区那古野1丁目47番1号 TEL.(052)562-2855
〒812 福岡市博多区博多駅前1丁目2番5号 TEL.(092)431-6671

総輸入販売元

CMI

Partner in Health Care

センチュリーメディカル株式会社

本社 〒141 東京都品川区大崎1丁目6番4号
PHONE (03) 3491-1601 FAX (03) 3491-1857

札幌営業所 (011)241-3737 大阪支店 (06)263-6275
仙台営業所 (022)213-0040 福岡営業所 (092)483-0310
名古屋営業所 (052)251-4400

シナジー スパイナル システム

THE SYNERGY SPINAL SYSTEM

THE NEXT GENERATION OF
SPINAL INSTRUMENTATION

持続性消炎・鎮痛剤


アルボ[®]100/200
 オキサプロジン100mg錠、200mg錠 薬価基準収載


効能・効果

■下記疾患並びに症状の消炎・鎮痛

慢性関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、変形性脊椎症、
頸肩腕症候群、肩関節周囲炎、痛風発作

■外傷後及び手術後の消炎・鎮痛

用法・用量

通常、成人にはオキサプロジンとして1日量400mgを1～2回に分けて経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減するが、1日最高量は600mgとする。

使用上の注意

1. 一般的注意

- (1) 消炎鎮痛剤による治療は原因療法ではなく対症療法であることに留意すること。
- (2) 慢性疾患(慢性関節リウマチ、変形性関節症等)に対し本剤を用いる場合には、次の事項を考慮すること。
ア. 長期投与する場合には、定期的に臨床検査(尿検査、血液検査及び肝機能検査等)を行うこと。
イ. 異常が認められた場合には減量、休薬等の適切な措置を講ずること。
エ. 薬物療法以外の療法も考慮すること。
- (3) 外傷後及び手術後に対し本剤を用いる場合には、次の事項を考慮すること。
ア. 炎症及び疼痛の程度を考慮し投与すること。
イ. 原則として同一の薬剤の長期投与を避けること。
- (4) 患者の状態を十分観察し、副作用の発現に留意すること。
- (5) 感染症を不顕性化するおそれがあるので、感染症を合併している患者に対し用いる場合には適切な抗菌剤を併用し、観察を十分に行い慎重に投与すること。
- (6) 他の非ステロイド性消炎鎮痛剤との併用は避けることが望ましい。
- (7) 高齢者及び小児には副作用の発現に特に注意し、必要最小限の使用にとどめるなど慎重に投与すること。

2. 禁忌(次の患者には投与しないこと)

- (1) 消化性潰瘍のある患者(副作用として消化性潰瘍が報告されているため、消化性潰瘍を悪化させるおそれがある。)
- (2) 重篤な肝障害のある患者(副作用として肝障害が報告されているため、肝障害を悪化させるおそれがある。)
- (3) 重篤な腎障害のある患者(腎血流量を低下させ腎障害を悪化させるおそれがある。)
- (4) 本剤の成分に対し過敏症の患者
- (5) アスピリン喘息(非ステロイド性消炎鎮痛剤等による喘息発作の誘発)又はその既往歴のある患者(喘息発作を誘発させるおそれがある。)
- (6) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人(「妊婦・授乳婦への投与」の項参照)

3. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- (1) 消化性潰瘍の既往歴のある患者(消化性潰瘍を再発させるおそれがある。)
- (2) 血液の異常又はその既往歴のある患者(血液の異常を悪化又は再発させるおそれがある。)
- (3) 肝障害又はその既往歴のある患者(肝障害を悪化又は再発させるおそれがある。)
- (4) 腎障害又はその既往歴のある患者(腎血流量を低下させ腎障害を悪化又は再発させるおそれがある。)
- (5) 過敏症の既往歴のある患者
- (6) 気管支喘息の患者(喘息発作を誘発させるおそれがある。)
- (7) 高齢者(「一般的注意」、「高齢者への投与」の項参照)
- (8) 小児(「一般的注意」の項参照)

※副作用その他の「使用上の注意」等は、添付文書をご参照下さい。



大正製薬株式会社

資料請求先

〒171 東京都豊島区高田3-24-1 TEL (03)3985-1111

注射用セフェム系抗生物質製剤



静注用0.5g・1g

キットS1g・キットG1g

(日抗基：注射用塩酸セフォゾプラン)

■効能・効果、用法・用量、使用上の注意(禁忌)等の詳細については、
添付文書をご参照ください。

■薬価基準：収載

FIRSTCIN[®] 略号: **CZOP**

製造・発売元



武田薬品工業株式会社

〒541 大阪市中央区道修町四丁目1番1号

提携



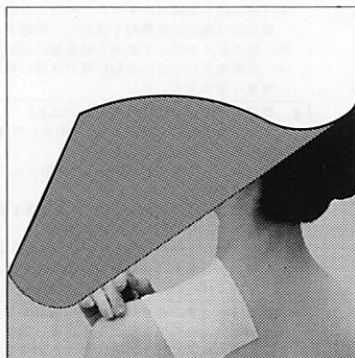
日本レダリー株式会社

〒104 東京都中央区京橋一丁目10番3号

(1996・3・FirB52-2)

ニューパップ剤は無臭の時代

●しっとりタイプの無臭性



【製品特性】

1. 香料を含まない無臭性の新しいパップ剤です。
2. 経皮吸収性にすぐれ、強い鎮痛・消炎作用を示します。
3. 粘着性にすぐれ、水分含有量が多いパップ剤です。
4. 副作用発現率は1.35%(5,028例中68例)で、主な副作用は発赤、痒痒感などいずれも一過性の皮膚症状のみでした。

【効能・効果】

下記疾患並びに症状の鎮痛・消炎
 ◎変形性関節症 ◎肩関節周囲炎 ◎腱・腱鞘炎 ◎腱周囲炎
 ◎上腕骨上顆炎(テニス肘等) ◎筋肉痛 ◎外傷後の腫脹・疼痛

【用法・用量】 1日2回患部に貼付する。

【使用上の注意】

- (1) 一般的注意 / ●消炎鎮痛剤による治療は原因療法ではなく対症療法であることに留意すること。
 ●皮膚の感染症を不顕性化するおそれがあるので、感染を伴う炎症に対して用いる場合には適切な抗菌剤又は抗真菌剤を併用し、観察を十分行い慎重に投与すること。
 ●慢性疾患(変形性関節症等)に対し本剤を用いる場合には薬物療法以外の療法も考慮すること。また、患者の状態を十分観察し、副作用の発現に留意すること。
 (2) 禁忌(次の患者には使用しないこと) / ●本剤又は他のフェルビナク製剤に対して過敏症の既往歴のある患者
 ●アスピリン喘息(非ステロイド性消炎鎮痛剤等による喘息発作の誘発)又はその既往歴のある患者(喘息発作を誘発するおそれがある)
 (3) 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) / 気管支喘息のある患者(喘息発作を誘発するおそれがある)。
 (4) 副作用(まれに0.1%未満、ときに0.1%~5%未満、副腎なし5%以上又は頻度不明) / 皮膚にときどき痒痒、発赤、皮膚炎(発疹、接触皮膚炎を含む)、まれに刺激感、また、水疱があらわれることがある。これらの症状が強い場合は使用を中止すること。
 (5) 妊婦への投与 / 妊婦中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。
 (6) 小児への投与 / 小児に対する安全性は確立していない(使用経験が少ない)。
 (7) 適用上の注意 / 使用部位
 ●損傷皮膚及び粘膜に使用しないこと。
 ●湿疹又は発疹の部位に使用しないこと。



フェルビナク貼付剤 薬価基準収載

製造元 帝國製薬株式会社
 〒769-26 香川県大川郡大内町三本松567番地

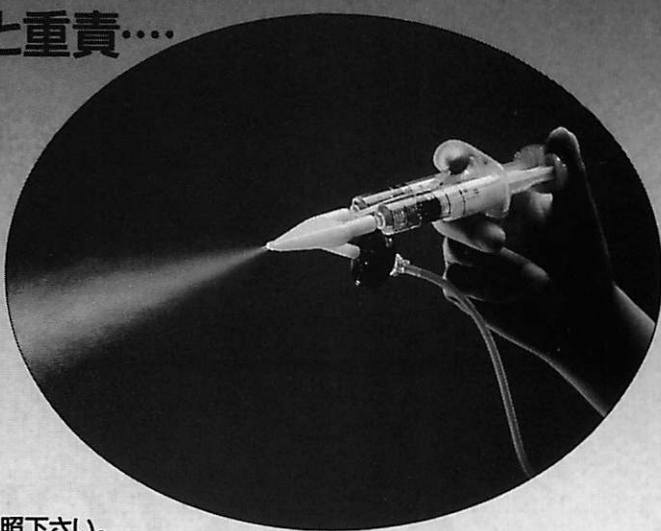
販売元 日本レダリー株式会社
 〒104 東京都中央区京橋一丁目10番3号
 (資料請求先・學術部)

販売 武田薬品工業株式会社
 〒541 大阪市中央区道修町四丁目1番1号
 1995.11

Bolster & Heal

献血であることの誇りと重責...

献血由来 生体組織接着剤
ボルヒール®
 BOLHEAL® (指) ■健保適用



●ご使用に際しましては製品添付文書をご参照下さい。

販売 **フジサワ**
 大阪市中央区道修町3-4-7 〒541

製造元・販売 **化血研**
 熊本市大塚1-6-1 〒860

資料請求先: 藤沢薬品工業株式会社薬事業部
 化学及血清療法研究所営業部

作成年月 1996年9月

スポーツ外傷に

薬価基準収載

経皮複合消炎剤

モビラート[®] 軟膏

〔効能・効果〕

変形性関節症(深部関節を除く)、関節リウマチによる小関節の腫脹・疼痛の緩解、筋・筋膜性腰痛、肩関節周囲炎、腱・腱鞘・腱周囲炎、外傷後の疼痛・腫脹・血腫

〔用法・用量〕

通常、1日1～数回適量を塗擦又はガーゼ等にのばして貼付する。症状により密封法を行う。

〔使用上の注意〕

1. 禁忌(次の場合には使用しないこと)

(1) 出血性血液疾患(血友病、血小板減少症、紫斑病等)

[本剤に含まれるヘパリン類似物質は血液凝固抑制作用を有し、出血を助長するおそれがある]

(2) 僅少な出血でも重大な結果を来すことが予想される場合

[本剤に含まれるヘパリン類似物質は血液凝固抑制作用を有し、出血を助長するおそれがある]

(3) サリチル酸に対し過敏症の既往歴のある患者

2. 副作用(まれに:0.1%未満、ときに:0.1～5%未満、副詞なし:5%以上又は頻度不明)

過敏症 ときに発赤、掻痒、また、まれに発疹、皮膚炎、皮膚刺激等の過敏症状があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には使用を中止すること。

●その他の使用上の注意等については添付文書をご覧ください。

資料請求先 製造販売
(1997.1作成)



マルホ株式会社
大阪市北区中津1丁目5-22

提携

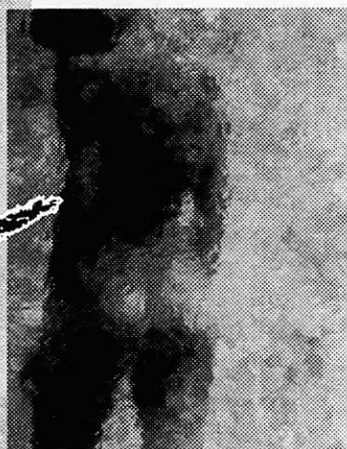


ルイトポルド・ファルマ社
ドイツ・ミュンヘン

微香性でさわやかな清涼感!

健保適用

Hello, Zepolas



経皮吸収型鎮痛・消炎剤

ゼポラス[®]

フルルビプロフェン貼付剤

製造発売元



三栄製薬株式会社
東京都練馬区豊玉北2-3-1

禁忌(次の患者には使用しないこと)

- (1) 本剤又は他のフルルビプロフェン製剤に対して過敏症の既往歴のある患者
- (2) アスピリン喘息(非ステロイド性消炎鎮痛剤等による喘息発作の誘発)又はその既往歴のある患者
[喘息発作を起こすことがある]

ハベカシンはMRSA感染症(敗血症、肺炎)にはじめて適応が認められた薬剤です。

鋭い一撃

MRSA感染症(敗血症、肺炎)に

禁忌(次の患者には投与しないこと)
本剤の成分並びにアミノグリコシド系抗生物質又は
バシトラシンに対し過敏症の既往歴のある患者



アミノグリコシド系抗生物質製剤

ハベカシン注射液

HABEKACIN[®] INJECTION

日抗基 硫酸アルベカシン注射液

※ 効能・効果、用法・用量、その他の使用上の注意等は、添付文書をご覧ください。

〔資料請求先〕



明治製薬株式会社
104東京都中央区京橋2-4-16

- 腰痛症、頸腕症候群、肩関節周囲炎の消炎・鎮痛に
- 手術後、外傷後、抜歯後の消炎・鎮痛に



非ステロイド性消炎・鎮痛剤

劇指

シロpain錠75
モフェゾラク Disopain[®]

禁忌(次の患者には投与しないこと。)

- 消化性潰瘍の患者(消化性潰瘍を悪化させるおそれがある。)
- 重篤な血液の異常のある患者(血液の異常をさらに悪化させるおそれがある。)
- 重篤な肝障害のある患者(副作用として肝機能障害が報告されているため、肝障害をさらに悪化させるおそれがある。)
- 重篤な腎障害のある患者(腎血流量減少や腎での水及びNa再吸収増加を引き起こし、腎機能をさらに低下させるおそれがある。)
- 重篤な心機能不全のある患者(プロスタグランジン合成阻害作用に基づくNa・水分貯留傾向があるため、心機能をさらに悪化させるおそれがある。)
- 重篤な高血圧症の患者(プロスタグランジン合成阻害作用に基づくNa・水分貯留傾向があるため、血圧をさらに上昇させるおそれがある。)
- 本剤に過敏症の患者
- アスピリン喘息(非ステロイド性消炎鎮痛剤等による喘息発作の誘発)又はその既往歴のある患者(重症喘息発作を誘発する。)

※ (効能・効果) (用法・用量) (使用上の注意) 等については、製品添付文書をご参照ください。



〔資料請求先〕

吉富製薬株式会社

ヨシトミ 〒541 大阪市中央区平野町二丁目6番9号

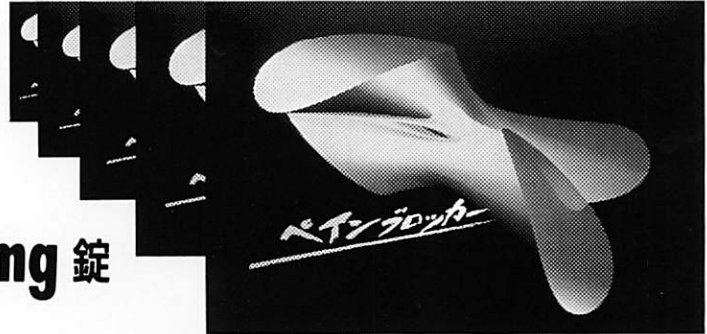
DS-4 (A4½) 1997年3月作成



鎮痛・抗炎症剤（薬価基準収載）

スルガム錠・200mg錠

（チアプロフェン酸製剤）



●効能・効果

下記疾患ならびに症状の消炎・鎮痛

慢性関節リウマチ、変形性関節症、肩関節周囲炎、頸肩腕症候群、腰痛症

下記疾患の解熱・鎮痛

急性上気道炎（急性気管支炎を伴う急性上気道炎を含む）

手術後および外傷後の消炎・鎮痛

●用法・用量

慢性関節リウマチ、変形性関節症、肩関節周囲炎、頸肩腕症候群、腰痛症、手術後及び外傷後の消炎・鎮痛の場合

錠：通常、成人1回2錠（チアプロフェン酸として200mg）、1日3回経口投与する。

頓用の場合は1回2錠経口投与する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

200mg錠：通常、成人1回1錠（チアプロフェン酸として200mg）、1日3回経口投与する。

頓用の場合は1回1錠経口投与する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

急性上気道炎（急性気管支炎を伴う急性上気道炎を含む）の解熱・鎮痛の場合

通常、成人にはチアプロフェン酸として1回量200mgを頓用する。なお、年齢、症状により適宜増減する。ただし、原則として1日2回までとし、1日最大600mgを限度とする。また、空腹時の投与は避けさせることが望ましい。

**（使用上の注意）

1. 一般注意

(1) 消炎鎮痛剤による治療は原因療法ではなく対症療法であることに留意すること。

(2) 慢性疾患（慢性関節リウマチ、変形性関節症等）に対し本剤を用いる場合には、次の事項を考慮すること。

1) 長期投与する場合には定期的に臨床検査（尿検査、血液検査及び肝機能検査等）を行うこと。また、異常が認められた場合には減量、休薬等の適切な措置を講ずること。

2) 薬物療法以外の療法も考慮すること。

(3) 急性疾患に対し本剤を用いる場合には、次の事項を考慮すること。

1) 急性炎症、疼痛、発熱の程度を考慮し投与すること。

2) 原則として同一の薬剤の長期投与を避けること。

3) 原因療法があればこれを行うこと。

(4) 患者の状態を十分観察し、副作用の発現に留意すること。過度の体温下降、虚脱、四肢冷却等があらわれることがあるので、特に高齢を伴う小児及び高齢者又は消耗性疾患の患者においては、投与後の患者の状態に十分注意すること。

(5) 感染症を不顕性化するおそれがあるので、感染による炎症に対して用いる場合には適切な抗菌剤を併用し、観察を十分行い慎重に投与すること。

(6) 他の消炎鎮痛剤との併用は避けることが望ましい。

(7) 高齢者及び小児には副作用の発現に特に注意し、必要最小限の使用にとどめるなど慎重に投与すること。

2. 禁忌（次の患者には投与しないこと）

- (1) 消化性潰瘍のある患者
- (2) 重篤な血液の異常のある患者
- (3) 重篤な肝障害のある患者
- (4) 重篤な腎障害のある患者
- (5) 重篤な心機能不全のある患者
- (6) 本剤の成分に過敏症の既往歴のある患者
- (7) アスピリン喘息（非ステロイド性消炎鎮痛剤等による喘息発作の誘発）又はその既往歴のある患者
- (8) 気管支喘息又はその既往歴のある患者
- (9) 妊娠末期の婦人（「妊婦・授乳婦への投与」の項参照）

20
錠20
錠

3. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

- (1) 消化性潰瘍の既往歴のある患者
- (2) 血液の異常又はその既往歴のある患者
- (3) 出血傾向のある患者
- (4) 肝障害又はその既往歴のある患者
- (5) 腎障害又はその既往歴のある患者
- (6) 心機能障害のある患者
- (7) 過敏症の既往歴のある患者
- (8) 高齢者（「高齢者への投与」の項参照）

4. 相互作用

併用に注意すること

- (1) クマリン系抗凝固剤（ワルファリン等）、カリウム製剤
- (2) チアジド系利尿剤（フクロキサン等）
- (3) 炭酸リチウム
- (4) ニューキノロン系抗菌剤（オフロキサシン等）

5. 副作用（まれに：0.1%未満、ときに：0.1～5%未満、副詞なし：5%以上又は頻度不明）

(1) 重大な副作用

1) 消化性潰瘍、胃腸出血 まれに消化性潰瘍・胃腸出血等があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には投与を中止し適切な処置を行うこと。

2) ショック まれにショックがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、胸内苦悶、呼吸困難、冷汗、血圧低下、頻脈等があらわれた場合には、投与を中止し適切な処置を行うこと。

3) 喘息発作 まれに喘息発作があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

4) 白血球減少、血小板機能低下（出血時間の延長） まれに白血球減少、血小板機能低下（出血時間の延長）があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

1) 消化器 ときに嘔吐、胃部不快感、腹痛、食欲不振、胃重感、胸やけ、下痢、口内炎、また、まれに胃炎、腹部膨満感、便秘、舌のあれ、口角炎、口渇、唾液分泌亢進等

があらわれることがある。

2) 過敏症 ときに発疹、また、まれに光線過敏症、紅斑、痒疹等があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

3) 精神神経系 まれに眠気、めまい、ふらつき感、頭痛等があらわれることがある。

4) 循環器 まれに頻脈があらわれることがある。

5) 血液 ときに貧血、白血球増多があらわれることがある。

6) 肝臓 まれに黄疸、また、ときにGOT、GPT、Al-P上昇等があらわれることがあるので、観察を十分に行い異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

7) 腎臓 ときに浮腫、BUN上昇、また、まれに高カリウム血症、蛋白尿があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

8) 泌尿器 外国において、本剤の投与により泌尿器症状（膀胱痛、排尿困難、頻尿）、血尿、膀胱炎があらわれたとの報告がある。泌尿器症状を認めてからも本剤の投与を数ヶ月間継続した場合に膀胱炎症状が重症化した例も観察されているので、泌尿器症状を認めた場合には投与を中止すること。

9) 耳 まれに耳鳴り、耳づまり感があらわれることがある。

10) その他 まれに脱力感、倦怠感、ほてり、胸痛、味覚異常、舌のしびれ、尿糖があらわれることがある。

6. 高齢者への投与

高齢者では、副作用があらわれやすいので、少量から投与を開始するなど患者の状態を観察しながら慎重に投与すること（「一般的注意」の項参照）。

7. 妊婦・授乳婦への投与

(1) 妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。

(2) 妊娠末期のラットに投与した実験で、分娩遅延及び胎児の動脈管収縮が報告されているので、妊娠末期の婦人には投与しないこと。

(3) ラットで乳汁への移行が報告されているので、授乳婦への投与は避け、やむを得ず投与する場合は授乳を避けさせること。

8. 小児への投与

小児に対する安全性は確立していない（使用経験が少ない）。

* 9. 適用上の注意

薬剤交付時：PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること（PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている）。

** 1997年6月改訂（2000年改訂）

* 1997年3月改訂

★その他詳細は現品添付文書をご参照ください。資料は医薬情報担当者にご請求ください。

販売：

日本ヘキスト・マリオン・ルセル株式会社

〒107 東京都港区赤坂二丁目17番51号

製造・販売提携：

ルセル森下株式会社

〒107 東京都港区赤坂二丁目17番51号

ヘキスト・マリオン・ルセル

私たちはヘキスト・グループの一員です

Hoechst



1997年7月作成

SUR-JB5(A①-1)0797-KS

